

自己評価書

四日市市立 中部中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	主体的に学ぶ生徒	3
主な方策 成果と課題	<p><主な方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主語になる「学び合い授業」の実施 ・公開授業の推進 ・全国学力・学習状況調査や体力テストの分析と対策 ・読書活動の推進 ・タブレット端末の適切な活用 ・少人数授業、補充学習、家庭学習の充実 ・保幼小中連携による学びの確認 ・言語能力を高めるテーマスピーチの実施 等 <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学び合いや対話の場面を授業に取り入れ、人の意見を聴いて考えを深めたり、自ら学ぼうとする姿が見られた。 ・公開授業では他教科の授業を参観し、自らの授業改善につながる学びとなった。 ・アドジャンの実施で、聞き合うスキルの向上、話しやすい環境が作られた。 ・小中連携の取組では小学校から中学校につながる視点、支援の手立て、問題意識を持つことができた。 ・対話型テーマスピーチを実施した。質問と回答を繰り返すうちに発表自体も深まり、聞く側の理解も深まった。 ・受容的な対話法を習得し「教室・仲間＝意見を出せる空間」に近づくことができた。 ・選書や出張図書などのイベントの充実による読書活動の推進が行われた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「対話」の共通認識、ファシリテーション力の向上。 ・中学校区における学びのルール of 共通理解・認識。系統立てて見通しを持った取組を増やす。 ・ICT機器を使う上でのメディアリテラシーの醸成。 ・授業に参加できない生徒へのさらなるアプローチとフォロー。 	
重点目標2	個性が輝く生徒	3
主な方策 成果と課題	<p><主な方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国籍生徒や特別支援学級在籍生徒への個別支援と進路保障 ・合理的配慮と基礎的環境整備 ・認め合い、高めあう人権教育・道徳教育・国際理解教育の実践 ・キャリア教育（職場体験学習、キャリア講演会、WAI!WAI! 議会等） 等 <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワールド学級について全職員が研修をし、生徒の現状や抱えている不安について共有し、教職員も含む周りの認識を振り返りながら問題意識を持ち、取組を考えることができた。 ・キャリア教育を通して、自分の思いや考えを堂々と発表できる生徒がでてきたり、対話する力がついてきた。 ・人権フォーラムや福祉学習から、リーダーシップの育成や出会いによるつながりを意識して行動する生徒が育ってきている。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常的に国際理解や人権課題を意識した取組や問いかけを意識して行う必要がある。 ・現在社会における人権問題を理解し、自分事と捉え、実行する力を育成する。 ・人権教育や同和教育の充実に向け、保幼小中の系統づけられた学びを考え合う場の設定。 ・特別支援学級在籍生徒の特性が多様化しており、柔軟に変化した支援の在り方。 	

重点目標 3	生徒と向き合う教職員	3
主な方策 成果と課題	<p><主な方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭訪問、教育相談、スクールライフノート等、対話を中心に据えた生徒理解 ・豊かな教育環境の整備に努める教職員全員（教員、事務職員、用務員等）の協働 ・教職員の健全な心身の維持増進に向けた総勤務時間の縮減 <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談は、生徒の思いを聞き、寄り添うことができるよい機会となっている。 ・スクールライフノートの活用により日々を通しての生徒理解に努めた。困り感のサインを見つけ、迅速に活動している。 ・部活動時間の縮減による教員の在校等時間の短縮。 ・日課や清掃の取組など、働き方改革に向けた改善が数多くあった。 ・各種委員会や各学年を通じて生徒の情報を共有し、互いに協力しながら生徒支援と指導にあたった。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・QUの研修会を行い、解釈のばらつきをなくし、生徒理解に役立てる。 ・心の天気の入力が十分に行き届かない。 ・教育相談を十分に行う時間の確保。 	

重点目標 4	地域と協働する学校	3
主な方策 成果と課題	<p><主な方策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営協議会、PTA、地域人材が教育に参画できる取り組み ・運営協議会との協働 ・地域中心のスペシャリスト授業や地域を拠点とした職場体験学習の実施 ・中学生の地域行事への参加（防災訓練、講習会、四日市祭り後の清掃など） <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校公開（土曜授業）に保護者や地域の参加があり、学校の状況を伝えられた。 ・地域や各事業所の方には職場体験学習・防災学習で協力を得られた。「地域で育てる」ことに意識が高まり、生徒のもつ地域所属感も高まった。 ・HPによる発信を随時行い、保護者や地域の方が学校の活動に興味を持ってもらえた。 ・シンキヤリア教育の充実 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・PTA活動の取組の厳選が必要。 ・学校運営協議会の場に生徒が参加する機会を作りたい。 ・今後、より多くの地域協力者が参画できるような内容を企画・充実していく。 	

2 改善方針

- ・今年度の実践から明らかになった課題を検証し、解決していくために具体化をして進めていく。
- ・学校教育目標「美しく生きる」めざす生徒の姿「自律」「協生」「創発」めざす教職員の姿「生涯学習の術となる学び方の習得を支援する」「自律を奨め、個性・強みを伸ばす機会を保障する」「時代の変化に対応し、自らも学び続ける」とし、学校づくり4つの決意を進めていく。
- ・「めざす教職員の姿」を自らの授業や分掌で責任もって実践していく。PDCAサイクルでの検証を行い、必要な研修会を重ねる。
- ・コミュニティースクールの機能をさらに高め、地域の豊富な人材の積極的な参画を進めていく。
- ・勤務時間の縮減を目指し、便利なツールの共有、情報交換、補い合いや生徒支援・指導に隙間が生まれないように連携して進める。職場内の「心理的安全性」を形成していく。
- ・子どもの育ちにかかわる喜びを分かち合う、学校、家庭、地域の関係性を築いていく。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 橋北中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな資質・能力の育成	4
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>①問題解決能力の向上をめざした主体的・対話的で深い学びによる授業づくり</p> <p>②学びの個別最適化と協働的な学習</p> <p>③全ての教科による言語能力・情報活用能力の育成</p> <p>④ICTの効果的な活用方法の研究</p> <p>【成果】</p> <p>・昨年度でICT推進事業の取り組みを終えたが、今まで校内研修に関わっていただいた放送大学の小林准教授に引き続き講師をお願いし、「つながりあう授業と単元デザイン」をテーマ（昨年度の課題が、生徒同士が授業中に課題に対して繋がっていく授業づくり、単元づくりを進めていく必要性を感じたから）にICTを効果的に活用し、生徒と生徒、生徒と教材、生徒と教師がつながる授業実践を校外に公開するなど、すべての教科において授業研究を行った。また、研究の成果を見とるために、ICTに特化したCAN-DOリストを作成し、生徒にアンケートをとるなど、成果を検証しながら研修を進め、「課題に取り組む場面で、ICTを活用し、クラスメイトとの対話を深めて課題を解決することができますか。」においては十分できると回答した3年生は1学期28.6%が2学期には44.8%に増加した。</p> <p>【課題】</p> <p>・小林教授を講師と招いて3年目であることから、学校として新たな課題に挑戦することも考えている。</p> <p>・昨年度に比べ生徒同士が授業中の課題に対して繋がっていく様子は多く見られたものの、まだまだつながれない生徒もおり、その生徒がなぜつながれないのかを考えながら、教師の適切な介入のある授業づくり、単元づくりを進めていく必要性を感じた。</p>	
重点目標 2	キャリア教育の推進	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>①社会的・職業的自立に必要な4つの力の獲得の支援</p> <p>②健康な体づくりの促進</p> <p>③非認知能力や自己肯定感を育む教育活動の工夫</p> <p>④特別支援教育の充実</p> <p>⑤持続可能な社会の実現をめざした教育の促進</p> <p>【成果】</p> <p>・4つの力を意識した毎日の活動や学校行事の振り返りを日常的に行ったことで、学校づくりアンケートで「昨年と比較し、4つの力が身についたと思う。」に対して93.2%（昨年度89.3%）の生徒が肯定的な回答だった。また、7月のPolaris発表会で、各学年の行事を通して身に付いた4つの力について、地域関係者や保護者、小学生の前で発表できた。</p> <p>・三重県教育委員会の郷土教育・キャリア教育推進事業をうけて、中学校3年生社会科公民の経済分野の授業で、橋北地区のコンビニを軸に単元を組み立て、授業公開をおこなった。生徒は1つの立場ではなく、様々な複数の立場から課題を追究できたり、学力差を感じない、学ぶ意欲さえあれば誰もが活躍できる授業実践ができた。</p> <p>【課題】</p> <p>・スコラ手帳からスクールライフノートに変わり、「自分の行動を計画したり振り返ったりしている」の生徒の肯定的回答が、昨年度より増加したものの、まだまだ66.2%である。</p> <p>・今年度から学校づくりアンケートに加わった「将来の夢や就きたい職業がある。」の肯定的回答が70.3%である。</p>	

重点目標 3	地域とともにある学校づくりの推進	4
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>①小規模校の強みを生かした教育活動の取り組みと地域への発信 ②コミュニティスクールを活用した諸活動の推進 ③『学びの一体化』の取り組みの促進 ④地域と連携した防災教育の取り組み ⑤働きやすい職場環境づくり</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小規模校の強みを生かしたというより、小規模校だからこそできる教育活動、例えば、OB洋画家の自画像指導や民生委員との認知症ワークショップなど、地域関係者との連携しながら進め、保護者や地域からも好評を得た。 ・ほぼ毎日のHP更新、学期に1回以上の学校公開やいつでも自由に参観できる「ふらっと参観」を行うことができた。その結果、様々な取り組みのねらいや効果を外部に発信することができた。 ・防災部が、防連や市民防と連携しながら、月に一度、ミーティングをしながら、地域の防災行事に年間通して5回参加した。その結果、地域の小学生からお年寄りまで含めた地域ぐるみでの防災意識を高めつつ、マスメディアにも多々取り上げていただいたり、地域からお礼の手紙が届いたりして生徒の自己有用感を高めるとともに、地域の防災部という位置づけがなされた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校づくりアンケートでの、「学校は、学校公開や地域行事に参加しやすいような取り組みをしている。」に対する保護者の肯定的回答は97%であったが、「地域行事に積極的に参加している」に対する生徒の肯定的回答は63.5%にとどまっている。 ・本年度は、県の郷土教育・キャリア教育推進事業を受けていたこともあり、地域に関するゲストティーチャーを講師として招くのに金銭的に潤っていたが、そのお金がないとゲストティーチャーへの報償費が減り、回数が減ってしまう。 	

2 改善方針

○コミュニティスクール委員からは、今年度の本校の地域に根差した取り組みについて、高評価をいただいているので、次年度も学校教育ビジョンの重点目標を柱に、地域・学校・保護者が1つのチームとして課題や成果を共有しながら、協働体制の構築を図る。

○各教科において生徒同士が繋がりが合うことができるようなりつつあるので、つながりにくい生徒がつながれるような必要性、考える力や表現する力を育成しつつ、各教科の見方・考え方を働かせる課題の設定や、授業づくり単元づくりの実践の推進を図る。また、上記の実践ができるように、教師の授業力向上を推進し、さらには個別最適な学びと協働的な学びの実現に繋げるため、自己選択学習を軸に研修を進めていく。

○本校キャリア教育の柱である4つの力（つながる力・みつめる力・うごく、いかす力・めざす力）の向上のため、3学年で取り組んでいるキャリア学習の取り組みを再構築し、3年間を通した取り組みになるよう改善を図る。

○防災部の生徒を中心に、本校の防災学習を進めるとともに、防災部以外の生徒も地域の防災活動に積極的に参加できるような呼びかけや体制づくりを行っていく。また、防災部については、地域からの行事依頼で動き始めるのではなく、地域のために自分たちから気づき考え行動できるような生徒を育成していく。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 港中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	知恵を育む（知）	4
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】 1 基礎的・基本的な知識・技能の定着 2 思考力・判断力・表現力の育成 3 特別支援教育の推進</p> <p>【成果】 ○生徒同士の交流を大切にしながら、基礎的・基本的な知識・技能の定着のための手立てを各教科で行うことができた。 ○思考力・判断力・表現力を育成するため、対話を通じて、課題への理解や解決方法を発見につなげ、生徒が主体的に問題解決するなど授業改善に取り組めた。 ○特別支援教育は、担任や学年教員との情報交換を密に行い、日々の指導に生かすなど、丁寧で適切な支援が行われている。</p> <p>【課題】 ●学力の二極化が改善されていない現状がある。生徒にとってどのような学習方法が望ましいのか模索していきたい。 ●特別支援学級の指導において、個別での学習だけでなく、共に学ぶ実感を持たせる場面を増やしていく。</p>	
重点目標2	心を豊かにする（徳）	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】 1 認め合い高め合う仲間づくり 2 健全な心の育成 3 読書活動の推進</p> <p>【成果】 ○行事や生徒会、委員会活動等を通じて、主体的に行動する姿勢を育成し、互いのちがいや良さを認め合う等、仲間づくりにつなげることができた。 ○みなトーク、グループワークトレーニングなどの取り組みを通じて、相互理解が進み、認め合おうとする意欲を育成することができた。 ○人権学習では、学級内でそれぞれの思いを交流することを通じ、自分も他者も大切にしている関係づくりの大切さに改めて気づかせることができた。</p> <p>【課題】 ●相互に支えあう関係づくりの構築のために、生徒同士、生徒と職員をつなぐ取り組みが必要である。 ●しなやかに、たくましく生きるために、自己肯定感を涵養する取り組みの充実が必要である。</p>	
重点目標3	健やかな体をつくる（体）	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】 1 体験活動等を生かした安全教育の充実 2 健康管理を心がける生活習慣 3 健康でたくましく生きるための体力の向上</p> <p>【成果】 ○地域や警察、市行政機関等と連携し、防災教育や交通安全教育を行うことができた。自分の身を守る行動の大切さを伝えることができた。 ○栄養教諭や保健委員会が食育や健康管理について発信し、健康について考える良いきっかけとなった。 ○ICTを活用することで、長期休業中に、生徒の生活の様子をタブレットを通して確認することができた。</p> <p>【課題】 ●生活リズムの乱れを防ぐため、生徒たちがいつも意識できる取り組みを行う必要がある。 ●過度の偏食を防ぎ、健康的な生活を送るために、食育に注力する必要がある。</p>	

重点目標 4	キャリア教育の推進	4
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <p>1 基礎的・汎用的能力を構成する4つ能力の育成(つながる・みつめる・うごくいかす・めざす)</p> <p>2 将来の夢や目標と学業を結びつける教育活動の工夫</p> <p>【成果】</p> <p>○すべての教育活動において、キャリア教育を意識した取り組みが定着しており、着実に力がついている。</p> <p>○キャリアに関する講演会や、職場体験を通じて、将来の自分の姿を考えることができていた。</p> <p>○地域との協同体験学習を行うことで、地域の文化や伝統を知るとともに、生き方に学ぶことができた。また、地区合同防災訓練では、中学生が防災・減災の主体者である自覚が生まれ、大変有意義であった。</p> <p>【課題】</p> <p>●生徒たちにも基礎的・汎用的能力を構成する4つ能力を意識させ、どんな力を身につけることができたかを自己評価させたい。</p>	

重点目標 5	“学び舎”の礎	3
主な方策 成果と課題	<p>【主な方策】</p> <p>1 学校組織の活性化 2 自己研さんの推進(教えのプロとしての自覚) 3 学びの一体化の推進 4 保護者・地域との協働</p> <p>【成果】</p> <p>○教育方法の変化が求められる中、職員室内が前向きで、積極的に情報の共有、協力を行う雰囲気がある。</p> <p>○学びの一体化では、小中での対話を重ね、共通理解が進んだことで、よい交流となっている。</p> <p>○地域のイベントに生徒が参加できたことは、地域の応援を肌で感じる機会となりありがたい。</p> <p>○学校HPや通信、学校公開週間等、学校からの情報発信を高頻度で行うことで、保護者や地域の方に学校を応援していただくきっかけになった。</p> <p>【課題】</p> <p>●学びの一体化をさらに推進し、人権教育に関する情報共有を行い、さらに伸ばしていくことが大切である。</p> <p>●地域のイベントに生徒が主体者となって参加する機会を増やし、保護者と地域と触れ合う機会としたい。</p>	

2 改善方針

- 業務におけるICTの活用が積極的に行われるようになってきた。今後は授業、家庭学習におけるICT活用の好事例を交流し、研鑽する機会を設定したい。一方からの発信だけでなく、双方向のやり取りが生まれるような活動を行いたい。
- 補充学習の充実・語彙力等読解力の向上を図るための「港タイム」がすべての生徒にとって充実した活動時間になるよう、個別最適化をめざし、改善につなげる。
- すべての教育活動において、キャリア教育の視点を常に持ち、生徒が社会で生きぬく力を育成する。
- 常に学校づくりビジョンを意識し、組織として、力を入れていきたい部分をはっきりさせ、全職員でそれを意識して取り組んでいくことが大切である。
- 職員室の風通しの良さを継続し、教職員がともに高めあい、支えあうチーム力を高める。またそれによって、それぞれが自分がすべきことを意識し、挑戦することで個々の力をさらに向上させる。
- 働きやすい環境づくりとして、仕事を精選し、仕事量の偏りを減らすために、仕事の割り振りを改善し、均等化を図りたい。
- 中学校入学以前に身につけた力をさらに伸長するため、学びの一体化の有効活用を図る。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 塩浜中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	確かな学力の向上・・・知	3
主な方策 成果と課題	<p><基礎的・基本的な力の定着> ○小規模校の特性を活かし、少人数教育・チームティーチングを効果的に実践し、生徒一人ひとりの個性や能力をよく見極め、きめ細やかな教育活動を行うことができた。 ○全国学力・学習状況調査やみえスタディ・チェックの結果を検証して、生徒一人ひとりに応じた指導を行うことができた。</p> <p><授業の工夫・改善> ○タブレットを活用した授業実践を進め、個別最適な学びと協働的な学びの実現に取り組んだ。 ▲研修委員会を中心とした、授業づくりや授業改善に向けた教員どうしの学びの機会の確保が必要である。</p> <p><コミュニケーション能力の育成> ○3年生でコミュニケーション能力向上の連続講座をもつことができた。 ○全学年で、各教科や総合的な学習の時間を使って、プレゼンテーション能力や表現力の育成に向けての実践を重ねることができた。</p>	
重点目標2	いのちを尊重する教育の創造・・・徳・体	4
主な方策 成果と課題	<p><道徳・人権教育の充実> ○道徳の授業では、通年で三重県道徳教育アドバイザーを招へいし、教員の授業力向上に向けての研修を行うことができた。 ○全学年で人権学習に取り組み、また人権作文の作成と発表を行い、生徒の人権意識を高める一助となった。そして2年生の作文を四日市市人権作文集の入選につなげることができた。</p> <p><性教育、食育、健康教育の推進> ○性と命の講座、食育担当の教員による定期的な指導、学びの一体化で小中連携した保健指導を実施できた。 ○学校保健委員会では、生徒へのアンケート調査を行い、生徒の「こころの面」に課題を抱えていることを明らかにした。その課題解決に向け、専門家を招き、講演会を行った。講演後の感想からも生徒の関心の高さがうかがえ、効果的な教育活動であった。 ○養護教諭より保健だよりを定期的に発行し、生徒が主体的に心身ともに健康的な生活を送れるよう啓発を続けることができた。</p>	

重点目標 3	地域とつながり、多くの体験活動を通じたキャリア形成	4
主な方策 成果と課題	<p><将来を見据えたキャリア教育> ○地元の事業所を中心とした職場体験学習を実施することにより、働くことの大切さ、大変さを知ることができた。</p> <p><地域との連携・協働> ○コミュニティスクール運営協議会委員、PTA役員、民生児童委員、地区防災協議会との連携・協働を図り、教育活動に反映させることができた。小学校との合同避難訓練の実施や文化祭での交流、こども園での保育実習など地区内の各校園との連携や情報交換ができた。</p> <p>○複数の地元企業を訪問し、環境について学習し、地域と密着した教育活動ができた。</p> <p><学校自己評価・学校関係者評価の実施> ○学校評価アンケートを実施し、それをもとに職員やコミュニティスクール運営協議会委員で、日々の教育活動を振り返り、今後の学校づくりにつなげることができた。</p> <p><情報の発信・受信> ○学校だよりや学年（学級）通信、ホームページ等により学校の情報をこまめに発信し、学校自己評価アンケートでも生徒・保護者とも高い満足度になった。</p>	

重点目標 4	特別支援教育の充実	3
主な方策 成果と課題	<p><校内支援体制の確立> ○隔週の特別支援教育推進委員会を定例化し、支援体制の充実に努めた。特別支援学級在籍生徒と通常学級に在籍している支援を要する生徒を中心に情報交換を重ねるとともに、それぞれの支援の方法に対して、議論することができた。</p> <p>○登校サポート委員会とも連携し、不登校生徒の支援について、検討を重ねた。</p> <p>○非常勤講師も含め全職員が特別支援学級の授業を担当しており、該当生徒の状態を把握しやすくした。また教育相談員も活用し、多様な人材で生徒の支援を行っている。</p> <p>○SCやSSWが来校したときには、担任や養護教諭と一緒に家庭訪問を行うとともに、専門的な立場から助言をもらい、個別の支援に役立てている。</p> <p>▲授業のユニバーサルデザイン化を進め、誰もが学びやすい授業づくり・学校づくりへの転換を図っていく必要がある。</p>	

2 改善方針

○学校づくりビジョンの達成に向けて、今までの成果をもとに、より効果のある教育活動となるよう授業づくり・学校づくりに取り組むとともに、教員一人ひとりの資質・能力の向上を図る。

○働き方改革、コンプライアンス意識の向上に努め、全職員が安心・安全でいきいきと働ける職場環境を整備する。そして、生徒にとって、良き大人としてのロールモデルとなれるような言動を心がける。

○全国学力・学習状況調査やみえスタディ・チェックまたはリテラス検定等の結果を検証し、生徒一人ひとりの能力に応じた学力の定着を図れるように教員の授業力向上や授業改善に向けた取り組みを学校全体で推進させる。

○家庭学習が定着するように、学校での授業との関連性を高め、生徒の自己学習力の育成に向けた研修を進めていく。

○不登校生徒や課題のある生徒に対して、今後もSC、SSW、教育相談員、民生児童委員あるいは外部の専門機関等と連携し、生徒が安心・安全な学校生活を送ることができるようにする。大学連携研修を通して、不登校生徒とのかかわり、新たな不登校生徒を生み出さない学校づくりを進めていく。

○通常の教育活動や学校評価アンケートなどを通して、生徒や保護者または地域の声に真摯に耳を傾け、信頼される学校づくりに全職員が一つとなって取り組んでいく。

自己評価書

四日市市立 山手中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の定着	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>一人1台端末やICT機器を活用した教育活動において、効果的な活用を進めるために、教科を超えた研修を深めながら、定着させることができた。また、小集団を活用した教育活動においても一人1台端末やホワイトボード等を活用しながら、グループ学習やペア学習を多く取り入れ、進めることができた。重点目標に対するアンケートの平均値は、「わかる授業」では教師3.4ポイント、生徒3.5ポイントとなり、「適切な評価」では教師3.3ポイント、生徒3.5ポイントと高い評価となった。具体的な成果としては、</p> <p>(1) ICTを活用した授業の定着と、効果的な活用の推進。</p> <p>(2) TTを活用し、支援が必要な生徒に対しての柔軟な対応。</p> <p>一方、課題としては、</p> <p>(1) 授業で理解した学習を定着させるための手立て。学習習慣が定着していない生徒への個別の対応。基礎学力に課題がある生徒の学習習慣の定着。</p> <p>(2) ICTによる教育活動の推進において、より効果的に活用できるよう教員の力量の向上。</p> <p>などが挙げられる。さらに研修を深め、授業の改善を進める必要がある。</p>	
重点目標 2	こころとからだの健全な育成	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>教育相談やふれあい指導等を通して、日常的に生徒に寄り添い、話を聞ける機会を確保し、生徒の心の状況を把握した。重点目標に対するアンケートの平均値は、「教育相談等、生徒との関わり」では教師3.5ポイント、生徒3.5ポイントとなり、「充実した学校生活」では教師3.3ポイント、生徒3.5ポイントと高い評価となった。</p> <p>また、道徳の授業では、十分に時間を確保し、生徒に考えさせる機会を大切にできた。重点目標に対するアンケートの平均値では、「道徳や人権・同和教育の充実」では教師3.3ポイント、生徒3.5ポイントで高い評価となった。今後も、授業だけでなく、日常活動のあらゆる場面で道徳教育の観点を持ち、指導に活かしていきたい。</p> <p>一方、課題はSNS上でのトラブルが多いことである。これらはコミュニケーション力の未熟さが背景にあるため、授業や日常の会話で引き続き指導していく必要がある。また、SNSの使い方については、家庭におけるルール作りやマナー指導が大いに重要であるため、学校における啓発内容に家庭で指導するための情報を発信していきたい。</p>	
重点目標 3	よりよい未来を創造する力の育成	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>生徒自身が自分のよりよい未来を創造するための手立てとして、修学旅行や職場体験、地域学習などを通じたキャリア教育を進めている。日常の教育活動の場面においても協働的な学びや活動の場面を意識して設定するとともに、仲間と共に取り組む活動が自分や周囲の力となることを感じることでできる取組を仕組んできた。</p> <p>また、今年度も引き続き、進路通信を全学年の保護者にも配信し、最新の進路情報を知らせるとともに家庭で進路について考えるきっかけづくりを進めている。</p> <p>加えて、地域とのつながりを意識し、全生徒対象に地域の行事や取組への参加を促すため、ボランティア募集を始めたところ、複数人の生徒が繰り返し応募し地域の行事にボランティアとして参加し始めた。参加の広がりはまだまだで、工夫を凝らす必要があるが、一定の成果は得られている。</p> <p>重点目標に対するアンケートの平均値は、「特色ある教育課程の編成」では教師3.3ポイント、生徒3.5ポイントとなり、「進路指導の充実」では教師3.2ポイント、生徒3.2ポイントと比較的高い評価となった。</p>	

重点目標 4	子どもの能力を伸ばす学校組織	3
主な方策 成果と課題	<p>自分たちの学校生活を振り返る中で、今年度も引き続き、生徒が中心となって校則の見直しを行った。また、誰にとっても生活しやすい環境を考え、個に応じた配慮や支援を行った。</p> <p>不登校や不登校傾向の状況にある生徒数は増加傾向にあるため、校内ふれあい教室の活用や、SC、SSW、他の機関と連携を取りながら効果的な指導に当たった。</p> <p>また、日々の生活や、体育祭、文化祭等の学校行事を通して、より良い人間関係を構築するとともに、子どもの能力を伸ばすため、自分で考え、判断し、行動する場面を意識して設定した。重点目標3にも記載した地域行事へのボランティア活動の参加は、その一つである。</p> <p>重点目標に対するアンケートの平均値は、「生徒指導上の問題への対応」では教師3.4ポイント、生徒3.5ポイントとなり、「充実した学校生活」では教師3.3ポイント、生徒3.5ポイントと高い評価となった。</p>	

重点目標 5	学校教育力の向上	3
主な方策 成果と課題	<p>学校の施設設備については、老朽化が進み、修繕すべき箇所が多いこともあり、生徒、教員ともに日常的に不便さを感じている。</p> <p>重点目標に対するアンケートの平均値は、「学校施設・設備の環境整備、有効活用」では教師2.6ポイント、生徒3.2ポイントで、保護者の回答でも2.8ポイントで、共通して低い値となった。要因としては、施設や設備の老朽化が挙げられる。</p> <p>施設設備については、危険度の高いものから、修繕・改修を行い、施設・設備が原因となる「防げる事故」を無くすように努めた。しかし、予算や修繕の規模により、年度内に修繕が叶わなかった箇所も残されているため、引き続き、来年度に引継いでいきたい。</p> <p>交通安全意識については、毎年のように、登下校中の自転車通学者の交通事故が多発している。本年度も、自動車との接触事故が複数件あり、ヒヤリハットを含むかなりの潜在的な危険があると推測できるため、より一層、交通安全に関わる指導が必要である。</p> <p>校区の小学校とは連絡を密にし、同じ方向性での対応や指導を行えるようにしている。学びの一体化の取組として、今年度も中学校の教員が年間を通して、小学校の授業に参加できたことは、今後の指導に大いに役立つと考えている。</p> <p>定時退校日の設定や各種会議の時間確保、部活動時間の短縮、テスト後の自動採点システム、行事の精選等、業務のスリム化を図り、昨年度に引き続き、時間外勤務はさらに減少した。</p>	

2 改善方針

- ・「チーム山手」として職員が動ける体制の強化。横と縦の報連相をより確実にするとともに、初動体制をより早く動ける体制を推進していく。
- ・継続的な発信力の向上。学校ホームページの更新を今年度同様に頻繁にして、学校の様子を発信し、ネット上からも開かれた学校としていく。
- ・前例踏襲ではなく、アップデートすべき事項を常に模索し、行事や活動の計画および実行に反映させていく。
- ・特別支援や登校サポートに焦点を当てた研修を推進する。
- ・日常の生活や学校行事、授業等において、自ら考え、判断し、行動に移していく場面を意識して設定していく。
- ・地域とのつながりを意識した教育活動を模索し、生徒の活躍する場を設定していく。
- ・論理的に物事の説明をできる能力の醸成を見据えた授業づくりや、自己決定の場を意識的に設けていく企てなどができるように、校内研修会やOJTを通して職員のスキルアップを図っていく。

【様式 1】

自己評価書

四日市市立 富洲原中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	学びの協働体づくり、学び合う授業づくり	4
主な方策 成果と課題	<p>(1)研修会の充実による授業力の向上 (2)「学びの一体化」の取組の充実 (3)体力の向上 (4)生徒の学習意欲と学力の向上 (問題解決能力・言語能力・情報活用能力の育成)</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none">・「InputとOutputが循環できる授業の創造に向けて」という研修テーマを掲げ、メンタリング制を導入した「パフォーマンス評価を軸にした評価の研修」を行った。・「学校教育活動に関するアンケート（生徒用）」において、「先生は授業を丁寧に教えてくれますか」に対する肯定的回答が98%と高い。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none">・「学校教育活動に関するアンケート（生徒用）」において、「ベーシック学習は役に立っていますか」に対する肯定的回答が78%と低い。・読み書き計算などの基礎学力の定着にも力を入れていく必要がある。	
重点目標 2	仲間づくり、ケアリング	3
主な方策 成果と課題	<p>(1)全職員による教育相談、特別支援教育の充実 (2)温かみのある生徒指導 (3)人権教育や道徳教育、キャリア教育の充実 (4)気持ちを理解し合える人間関係の育成</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none">・専門職であるSC、SSWをメンバーに加えた特別支援委員会、登校サポート委員会を隔週で交互に実施し、支援が必要な生徒への対応について共通認識を持ち、専門職のサポートを受けながら取り組んだ。・ほっとルームの運用と情報の共有を通して、個に応じた支援や配慮を提供した。・さくら教室の運用とオンライン授業配信、家庭訪問による登校サポートを実施した。 <p>・「学校教育活動に関するアンケート（生徒用）」の自由記述において35件の回答があり、そのうち人間関係の構築・コミュニケーションに関する9件、行事・イベントに関する6件は、学校をよくするための建設的な意見であった。人間関係が育まれている成果ととらえている。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none">・相手を傷つけてしまう不用意な発言や、これをきっかけとした対人関係におけるトラブルが生じることがあるため、今後も人権教育や道徳教育、キャリア教育に力を入れていく。	

重点目標 3	地域とともにある学校づくり	3
主な方策 成果と課題	(1)教育活動を積極的に公開 (2)地域（人材・歴史・文化・産業）を学習の舞台として活用 (3)生徒の自主活動・体験活動の充実 (4)学校や生徒の活動が見える学校環境の整備 (5)部活動を通しての人間形成 (6)総勤務時間縮減に向けた取り組み 【成果】 ・学校ホームページ、学年通信で教育活動の様子を積極的に発信した。報道発表も積極的にいき、NHK、CTY、中日新聞、YOUよっかいち等のメディアで取り上げていただいた。 ・地域や大学との連携、ゲストティーチャーの招聘など、外部資源を活用した教育活動を実施した。 ・「学校教育活動に関するアンケート（保護者用）」において、「教育方針や学習内容をHPや通信などで伝えていきますか」「授業を公開したり学校の様子を伝えたりしていますか」に対する肯定的回答がそれぞれ92%と高い。 ・「学校教育活動に関するアンケート（生徒用）」において、「地域の人々に教えていただく機会がありますか」に対する肯定的回答が98%と高い。	

2 改善方針

<p>1. 「ベーシック学習」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の目的や意義が生徒に十分に伝わっておらず、効果が実感できていない可能性がある。ベーシック学習の意義や効果を伝える。 ・内容について、生徒の声をフィードバックし改善する。 <p>2. 読み書き計算などの基礎学力について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校からの学習の積み重ねに個人差があると思われる。小学校との連携を強化し、基礎学力のギャップを早期に把握し対応する。 ・タブレットを活用した学習アプリの活用を工夫する。 <p>3. 生徒指導について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まだまだコミュニケーションスキルの不足、相手の気持ちを考えにくい、トラブル発生時の適切な対応方法が身につけていないなどの背景が考えられる。日常的な声かけや活動の中で、相手を思いやる言葉の使い方を習慣化するとともに、トラブルが起きたときは、感情ではなく事実を整理し、冷静に対話を促す。また、解決後のフォローを大切に、次につなげる意識を持たせる。 <p>4. 業務遂行について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員間の情報共有ツールを工夫する。 ・分掌の複数担当制を導入し、業務の負担を分散する。

【様式 1】

自己評価書

四日市市立 富田中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	授業を大切にしている学校	3
主な方策 成果と課題	<p>・ 授業に関する項目で「楽しく学べ、自分を高めることができているか」「考える・話す・表現することに意欲的に取り組み、学んでいるか」では、生徒の肯定的な回答は約 80%であった。今後も教員同士で授業を見合ったり、授業に関する研修会で学びを深めたりするなど、授業改善に継続的に取り組む。一方、生徒に対する「タブレットは学習の役に立っているか」という質問では、昨年度より 10ポイント低下した。同じように保護者に対する「お子さんにとって、タブレットは学習に効果的だと思いますか」も昨年度より 14ポイント低下した。生徒と教員がともに役に立っていると実感できるように、研修委員会を中心に、効果的な ICT 機器の活用についての研修の機会や学び方の工夫を行っていく。保護者に対しては、ホームページでタブレットを活用した具体的な効果場面等を発信していく。</p> <p>・ 「学校以外の学習に日常的に取り組んでいるか」という質問では、生徒は、69%の肯定的な回答にとどまった。「家庭学習のあり方」について、生徒自らが進んで学習に取り組めるよう学び方や方法を伝え、保護者にも学年通信等で伝えていく。生徒へ、タブレットでの具体的な学習の仕方をさらに指導し、家庭学習で活用するように指導する。保護者への理解・周知にも努める。</p>	

重点目標 2	一人一人を大切にしている学校	3
主な方策 成果と課題	<p>・ 「自分のことを大切にしているか」という質問では、肯定的な回答をした生徒が 81%と昨年度並みの結果となった。今後学校全体として、総合的な学習の時間、学活、道徳の時間、学校行事を柱として、自己肯定感が高まるように取り組んでいきたい。</p> <p>・ 「学校に安心して過ごすことができる場所はありますか」という質問では、生徒の肯定的な回答が 87%と大幅に増加した。しかし、13パーセントの生徒が安心して過ごせていないことを真摯に受け止め、人権教育推進委員会と生徒指導委員会、登校サポート委員会を中心に取り組む。具体的には、人権フォーラムやメディアリテラシー養成講座、全校で人権について考える集会、休み時間の教員による見守りを継続する。今年度途中から、取り組み始めたいじめリスクアセスメントを来年度も継続し、いじめの早期対応を行っていく。毎学期全生徒対象に行っている教育相談も充実させる。また、教室に入りづらいと感じている生徒に対しては、校内登校サポート教室（WAVE）を充実させ、「生徒一人一人を大切にしている学校」の実現に向けていきたい。</p> <p>・ 「先生たちは生徒一人一人を大切にしているか」は生徒が 93%、保護者が 93%という肯定的な結果となった。教師も一人ひとりを大切にしている教育を推進できたと感じている。引き続き日々の生徒との接し方、言葉がけを大切にしながら、相談しやすい関係を作っていく。学校生活に困り感を抱えている生徒に視点を向け、学校が誰にとっても安心して過ごすことができる場所になるように、指導や支援を継続していきたい。</p> <p>・ 「先生たちは授業などで生徒たちが困らないように、指導や支援を工夫しているか」という質問では、93%の生徒が肯定的に回答している。今後も、すべての生徒たちにとって学びやすい環境（ユニバーサルデザイン）が整っているか、確認を欠かさず、改善をはかりたい。</p>	

重点目標3	保護者や地域と協働し高める学校	3
主な方策 成果と課題	<p>・学期に一度を目安に授業公開期間を設定し、保護者の方に実際に生徒の姿を見てもらう機会を設けている。また今年度は9月に、PTAが主催して保護者、地域の方とともに除草作業を行った。</p> <p>・「地域の人や保護者と協働した学習や活動に取り組むことができましたか」という質問では生徒55%、保護者63%、教師82%が肯定的な回答であり、昨年度より数値は上がった。本年度は、日曜授業として地域総合防災訓練への参加、富田地区自主防災隊の方からの講話、富田地区にある四日市北消防署の防災教育センターの体験を行った。また「職場体験学習」、コミュニティスクール運営協議会の委員の方にコーディネートしていただいた「中学生と語る富田の未来」や「富田再発見」として行った地域のフィールドワークなど地域の方々や生徒が接する機会が多いにもかかわらず、生徒や保護者の回答は低い。今後、地域との協働について生徒への意味づけを明確にして、生徒にとって地域の方との取組とわかるようにする。学校通信やホームページでさらに発信もしていきたい。</p> <p>・よりよい地域との協働を進めるために、昨年度から、地域の関係機関と開催時期など現在協議を行っている。来年度も、防災を軸に生徒が地域の方々や協働して学ぶ機会を継続していく方針である。引き続き地域の関係機関やコミュニティスクール運営協議会委員と適切に連携しながら、取組を充実させるとともに、地域の人材や資源をうまく活用したい。</p>	

2 改善方針

<p>「学校づくり三つの決意」〈令和7年度の具体的な取組内容・改善点〉</p> <p>1 授業を大切にす学校 確かな学力の定着について 個人授業研修をはじめとする授業公開を軸とした「主体的・対話的で深い学び」の実現及び「問題解決能力向上」のための授業づくりを推進していく。また中学校区の「学びの一体化」を効果的に活用し、こども園や幼稚園・小学校との連携による学びを一層深めていく。</p> <p>2 一人一人を大切にす学校 自分も他者も大切にし、認め合い高め合える人権教育の実践について 「自分のことを大切である」と実感できる生徒の育成を目指し、教科授業だけでなく総合的な学習の時間、学活、学校行事を人権教育の視点でとらえ、生徒同士のつながりを意識した活動を進めていく。</p> <p>3 保護者や地域と協働し高め合う学校 保護者との双方向の情報共有について 学校公開、学校・学年だより、ホームページ等で積極的に情報公開するだけでなく、家庭訪問やHome&Schoolを活用しながら保護者の声に耳を傾け、思いに寄り添い、相互に対話できる関係づくりを進めていく。</p> <p>防災は、富田地区にとって大きな課題であり、地域、学校共に防災教育への意識は高い。そこで令和7年度から「地域等の教育資源を活用した教育活動の実施と地域活動への参画」を「地域等の教育資源を活用した教育活動の実施」「防災教育を要とした地域活動への参画」にわけることで防災教育に焦点化していく。</p> <p>地域の人材や資源を生かし地域との連携・協働を進める。地域の伝統行事等に生徒が積極的に参加し、まちづくりに貢献できるようにする。</p>
--

【様式1】

自己評価書

四日市市立 笹川中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	確かな学力	3
主な方策 成果と課題	<p>①授業改善・学習改善（学力向上） ②学力補充 ③学力定着につなげる家庭学習 ④生徒の学習意欲を喚起する授業 ⑤コミュニケーション力の育成 （成果） ・授業において個に応じた指導を意識したタブレットパソコン等のICTの活用を推進することができた。それぞれの生徒の学習課題への興味関心を高め、主体的で協働的な学習を深めることができた。 ・研修に力を入れ、みえスタディや全国学力・学習状況調査の結果を分析したり、授業改善に努めたりした。</p> <p>（課題） ・授業におけるICTの活用をこれまで以上に推進するとともに、家庭学習でのタブレットの活用も進めていく必要がある。 ・笹っ子タイムの取り組みを進め成果をあげることができたが、今後さらに生徒のコミュニケーション能力向上のため、普段の授業時の話し合い活動にも活用できるよう職員研修を進める。</p>	
重点目標2	豊かな心、健やかな身体	3
主な方策 成果と課題	<p>①心や命を大切にする教育 ②読書活動の充実 ③体力・運動能力の向上 ④健康教育、食育の推進 ⑤基本的な生活習慣の確立 （成果） ・考え議論する道徳や人権教育等を通して、心の教育に力を入れることができた。 ・西日野にじ学園との交流を通じて、お互いを理解し、共に生きる社会について考える機会とすることができた。今後は、企画運営のさらなる発展・充実を実践していきたい。</p> <p>（課題） ・教職員自身の人権意識向上の取り組みを今後も組織として計画的に推進していくことで、学校がすべての生徒にとって安心安全で、人権が尊重される場となるようにしていく。いじめや差別を許さない「仲間づくり」を継続して推進していく必要がある。 ・道徳、人権学習等の取り組みを学校公開に合わせて企画したり、保護者も参加していただける人権講演会を計画したりする等、保護者・家庭との連携を図っていきたい。</p>	
重点目標3	よりよい未来、社会を創造する力	3
主な方策 成果と課題	<p>①生き方につながるキャリア教育 ②地域の資源を生かした教育 ③安心・安全な笹川中であるために ④社会性を身につける ⑤現代的な課題に対応する力 （成果） ・外部講師を活用し、生徒自らが調べたり、考えたりすることを通じた職場体験を実施することで、一人ひとりの将来を見通したキャリア教育を進めることができた。 ・避難訓練を予告なしで掃除の時間に行うことで、緊急時を想定し、より実践的な訓練を行うことができた。</p> <p>（課題） ・教科等の学習と関連付けた体験的な学習が充実するよう、計画的に企業連携や四日市の地域力活用等を企画して計画的に取り組みたい。</p>	

重点目標 4	全ての子どもを伸ばす教育の推進	3
主な方策 成果と課題	<p>①生徒の学習意欲を喚起する授業の創造 ②やる気につながる評価 ③生徒一人ひとりを大切にする指導 ④特別支援教育、登校支援の充実</p> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Q U 調査等の結果を学年での検討・活用だけでなく、年に2回の研修会を行い、生徒理解の取り組みを進めることができた。また、全生徒を対象とした教育相談を各学期に1回行い、個別の支援につなげることができた。 ・ 校内ふれあい教室では、不登校傾向のあった生徒も、開級日には毎日登校することができている生徒もいる。不登校の初期対応として効果的に活用できている。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 支援の必要な生徒が年々増加しており、全職員が個々の生徒に様々な対応ができるよう、研修を深め、学校としての対応力を高めるための取り組みを充実させていく。 	

重点目標 5	学校教育力の向上	3
主な方策 成果と課題	<p>①学校経営の充実 ②生徒指導の充実 ③学びの一体化の推進 ④地域と協働した開かれた学校づくり ⑤教職員の資質・能力の向上</p> <p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒指導委員会や研修委員会を毎週1回、特別支援委員会と登校サポート委員会をそれぞれ隔週1回行い、各学年の情報を集約し、計画的、組織的な指導につなげることができた。 ・ 授業参観や学校公開日、行事等を通して、定期的に保護者や地域の方に学校に来ていただき、実情を見ていただくことができた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページや学校通信だけでなく、ホーム&スクールをさらに利用し配信することで、情報発信の充実を図りたい。 ・ 授業規律を確立させることで学級全体への指導を安定して行えるようにする。さらに、一人ひとりの状況把握を確実にし、学年・学校で情報共有しながら、個に応じた指導ができるよう、組織的な対応を行っていく。 ・ 授業公開や研究授業の持ち方、あり方について検討し、より効果的に実施できるような年間を通した研修計画を見直していく。 	

2 改善方針

学校づくりビジョンに掲げている「めざす生徒像」である「心豊かに、たくましく、意欲的に生活しようとする生徒」、「互いに認め合い、支え合い、向上しようとする生徒」を教師、生徒、保護者、地域にわかりやすく周知し、「地域に根ざした豊かな学びのある学校」となれるよう協働して取り組みを充実させていく。そのために教師も生徒も「主体性」をもって取り組み、積極的に保護者や地域と対話し、取り組みを進めていく。よりいっそう開かれた学校となるよう、情報発信を積極的に行う。

●確かな学力の定着【基本目標1】・学校教育力の向上【基本目標5】

- ・ 教師自らが主体的に授業改善を進め、生徒の資質・能力の向上に努める。また、学校業務を見直し、ワークライフバランスの適正化を図りながら、教職員の資質・能力を向上させる。

●豊かな心、健やかな身体の育成【基本目標2】・全ての子どもを伸ばす教育の実現【基本目標4】・学校教育力の向上【基本目標5】

- ・ 生徒指導、人権教育、特別支援教育、登校サポート等において、組織的・計画的な取り組みを充実させる。また、昨年度から始めた「笹っ子タイム」等の取り組みを充実させ、さらにコミュニケーション能力やソーシャルスキルの向上を図る。また、合理的配慮など教職員の視点や意識のベクトルをそろえ、支援の必要な生徒に対し、さらにきめ細かな指導に取り組んでいく。

●よりよい未来、社会を創造する力【基本目標3】

- ・ 外部講師の招聘を積極的に行い、キャリア教育の充実につなげる。また、SNSトラブル回避に向けての教育についても、家庭と連携しながら取り組みを充実させていく。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 南中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	<p>I 学力の定着と充実 *主体的・対話的で深い学びの実現 *確かな学力の定着と読解力の向上 *ICTの有効活用による授業改善</p>	3
主な方策 成果と課題	<p>○ペア学習やグループ学習を取り入れたことで、対話・話し合いの機会や協働できる学習の機会を設けた。 ○画像・動画の提示やスプレッドシートやポジションニングやゲーグルクラスルームやフォームでのアンケートなどのタブレット・ICT活用から個別最適化や協働的な学びや読解力向上に取り組むことができた。 ○ICTを使い、関数や図形分野において視覚的にイメージの補助や表現や文字を書くことが得意でない生徒へ文字を書くこと、調べること、視覚的に理解することなどの補助に活用できた。 ●以前よりICTを活用する教員が増えてきている。今後も教職員のICTへの共通理解が必要だと感じた。 ○3年生を中心に英語や数学などで少人数授業やITを行った。また国際教室や学年の補充学習などで学習支援を行うことができた。 ●各教科の授業の内容について、教科横断的な取り組みの弱さを感じる。各教科の方向性を揃えて取り組むことで、生徒の力ももっと伸びるように感じる。 ●グループ活動等「対話」「協働の取り組み」に関する機会、約束事、方法等を全教科で取り組んでいく必要がある。まだまだ教師主体の授業が多いため、子どもに課題解決を任せていく授業づくりを進めていく。</p>	
重点目標 2	<p>II ことごとからだの健全な育成 *道徳・人権教育・読書活動の充実 *仲間づくりを柱とした教育の充実 *体力・運動能力の維持および向上</p>	3
主な方策 成果と課題	<p>○タブレットを活用するデジタル図書や新聞の活用を行い、生徒の読書の幅を広げることができた。 ○保護者と連携した人権講演の設定や人権学習のOJTや地域の方と連携した人権研修会など積極的に行なった。 ○全校ダンスや縦割り合唱などを行い、全校規模での仲間づくりを行なうことができた。行事や授業を通して規律を守ること、仲間を大切にすること、協力することなどの重要性を伝えることができた。 ○生徒たちの、メディアセンターの積極的な利用を感じる。またそこで、色々な自分の興味ある課題の書籍を探している姿を感じている。メディアセンターの貸し出し本冊数が6000冊を超えた。 ●人権学習は行えているが、一人一人の生徒の家庭環境・背景について学ぶ取り組みまでにはなっていない。教育相談や家庭訪問やICTを活用して深めていきたい。 ●仲間づくりを柱とした教育を道徳、人権教育、普段の生活の中で意識はしてきたが、子どもたちが気持ちよく過ごせたと実感できる取組を進めていく。 ●読書の時間は、本を眺めているだけの生徒がいるため、読書推進の取組を進め、メディアセンターの活用を促したい。 ●仲間づくりとして、生徒会委員会活動や行事等様々な場面で子供主体で考え作り上げる場面を作れるとよい。</p>	

重点目標 3	Ⅲ よりよい未来社会を創造する力の育成 <ul style="list-style-type: none"> * 夢の実現に向けたキャリア教育の推進 * 持続可能な社会を目指す教育の充実 * 健康教育、防災・安全教育の推進 	3
主な方策 成果と課題	<p>○職場体験の体験先で第一次産業を入れるなどして、職種の数を増やし活動の充実を図った。</p> <p>○防災訓練を年3回実施、交通安全や学校安全でPTAやCSと協力して、見守りや危険箇所について情報共有を行った。</p> <p>○学校三師による全校健康集会や学校三師と栄養教諭とPTAと教員で健康会議を行うことができた。またCSで試食会を行い学校給食について話し合うことができた。</p> <p>○福祉委員会の活動（エコキャップ運動、アルミ缶回収、花いっぱい運動）や、安全教育（消防署によるAEDの使い方や止血法などの応急措置やいなべ総合病院より講師を招いての性教育講座）をおこなった。生徒自身がSDGsや命の学習や性教育や食育からより良い未来について考えることができた。</p> <p>○学調の質問紙から将来の夢や目標を持っている生徒の割合が、国や県の平均より高く、成果が少しずつでている。</p> <p>●防災教育の時間が少ない。避難訓練もパターン化しているので再考していく必要がある。</p> <p>●登下校の安全対策がなかなか改善されない。・安全な登下校のために、より交通指導が必要だと感じた。</p>	

重点目標 4	Ⅳ 子ども能力を伸ばす教育の充実 <ul style="list-style-type: none"> * きめ細かな個に応じた指導の充実 * 教育的ニーズに応じた支援の充実 * 社会的な自立に向けた支援の充実 	3
主な方策 成果と課題	<p>○C4thダッシュボードや心の天気やスクールライフノートやスタンドパイやフォームでのアンケートやオンライン授業やデジ教科書などのICTを活用して個に応じた支援を行うことができた。</p> <p>○支援ファイルなどを使い一人一人の生徒についてアセスメントを可能な限り行い、将来の自立に向けて、今、必要な支援を優先して個別の指導目標を立てることができた。</p> <p>○登校サポート支援の中で社会体験不足が感じられる生徒にはメディアセンターの活用をすすめ、視野を広げられるように努めた。様々な職業があることを知り、将来の展望が広がった。</p> <p>○年3回の教育相談やアンケートを実施。休み時間のふれあい指導を行った。校内ふれあいを中心に登校サポートやSCやSSWなど等相談体制の充実に努めた。</p> <p>●登校サポートの必要な生徒への通常学級での支援を、もっと柔軟に困り感に寄り添っていく。</p>	

重点目標 5	V 学校教育力の向上 <ul style="list-style-type: none"> * 相互理解を重視した生徒指導の充実 * 地域等と協働した学校づくりの推進 * 教職員の資質向上と働き方改革を推進 	3
主な方策 成果と課題	<p>○百問繚乱や高速複合機やG4thダッシュボードやH&SなどのICT活用により業務改善や校務DXを進め業務の効率化や業務の質の向上につなげることができた。</p> <p>○生徒会を中心にあいさつやいじめ防止運動の推進を行った。</p> <p>○地域連携の活動を大切にすることができた。CSを中心としたビジョンの設定や生徒教師の地域参加(人権標語やポスター、吹奏楽演奏、健全育成啓発活動)することができた。</p> <p>○主任児童委員や児童相談所等関連機関との連携で生徒指導や生徒・保護者の支援を行うことができた。</p> <p>○SSS・学アシ・部活動指導員・図書ボランティア・ゲストティチャー・教育相談員・学習指導員・SC・SSWなど学校運営に協力していただき学校業務を円滑に進めることができた。</p> <p>○研修履歴を活用した管理職面談や各種アンケートなどから風通しの良い職場の構築。</p> <p>●SNSのトラブルが大きな課題と感じている。外部講師を招いてメディアリテラシーやSNS安全教室を行っており、生徒・保護者の関心を一層あげていくための手立ての必要性を感じる。</p> <p>●登校サポート教員やICT担当や教務関係などで役割分担の明確化や過度な負荷がいかないような組織体制が必要である。</p>	

2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> ・若い先生など困り感をもっている先生が一人で困り感を抱かないようにOJTなどを通して教員同士の対話を大切にしていく。 ・風通しの良い職場から、みんなが働きやすい職場をつくりあげていく。また研修履歴を使った面談やストレスチェックやPCの出退勤管理から職員の心身の健康を大切にしていく ・日課・行事の見直しや部活動の地域移行に伴う見直しなど教育委員会と連携して取り組む。 ・ICTの活用を進め業務改善や働き方改革や教育DXを進めていく。

自己評価書

四日市市立 西陵中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の定着と向上	3
主な方策 成果と課題	<p>○きめ細かく個別最適で多様な学びの構築 ○論理的な思考過程が充実する授業の創造</p> <p>全国学力学習状況調査においては、正答率は全国平均値とほぼ同じであった。1、2年生は「みえスタディチェック」に取り組んだが、本校生徒は無回答率が低く、昨年度に引き続き粘り強く考えようとする姿勢が見られた。結果を踏まえての指導の工夫や改善点を次のようにまとめた。</p> <p>◆つまづきの原因を探り、反復練習等を粘り強く進める。 ◆ICTの効果的な活用を進め、考えを可視化する機会を増やす。 ◆生徒自らが納得できる答えを追求する過程を大切に授業づくりを進める。 ◆調査問題の共有を進め、教師それぞれが教科を越えての取り組みとしていく。</p> <p>学校アンケートの「分かる授業」についての質問では、99%の生徒が肯定的な回答をしており、昨年度よりも増加している。今後も個別最適な学びの構築に向けて授業づくりを進めている。</p>	
重点目標 2	豊かな心と健やかな体の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>○対話と協働を通じた自他尊重の人格形成 ○自己の生き方を追求する「道徳」の実践 ○心身の健康・安全面等の自己管理の徹底</p> <p>学校アンケートにおいて、昨年度と同じく「教師は親身になって相談に乗ってくれるか」の質問に対して、肯定的な回答は生徒が100%、保護者も91%という高い数値が出た。これは日常的な見守り巡回や素早い問題行動への対応が、生徒や保護者からの信頼関係につながっているものと思われる。しかし、生徒への質問項目の「将来の夢を持っているか」に対する肯定的な回答値は、昨年度の82%をさらに下回る79%であったため、もっと達成感や自己肯定感を味わえるような機会を増やしたり、講演会や体験活動を軸としたキャリア教育をさらに充実させて、将来に明るい展望を持てるような機会を増やしたりする。</p> <p>さらに、いじめや不登校問題については、個別に丁寧な対応に努めるとともに、道徳の授業等を通して自分の生き方を見つめるきっかけとなるようにしたい。</p>	
重点目標 3	地域と共にある学校の構築	3
主な方策 成果と課題	<p>○生徒による地域活動への積極的な参画 ○家庭・地域へのきめ細かな発信と啓発 ○要望の積極的受信、素早く誠実な対応</p> <p>本年度も学校環境整備活動を2度実施したが、保護者の参加率は高く協力的であり、それは学校への関心が高いということである。それを生かして、さらに保護者との協力体制を揺ぎないものになりたい。</p> <p>昨年度の学校評価アンケートの保護者の意見として、学校ホームページの更新についてご意見をいただき、本年度はほぼ毎日ホームページを更新したり、メール斉配信システムを活用し、きめ細やかに学校の情報を発信した。</p> <p>さらに昨年度から、地域の自治会で実施される防災訓練に生徒が参加し、地域において中学生は頼りにされている存在であるという自覚を持たせた。中学生の自治会訓練への参加は定着しつつあり、地域とともにある学校になりつつあることを実感できた。学校と地域がタイアップした防災組織の立ち上げも検討している。</p>	

重点目標 4	学校の教育力・教師力の向上	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>○「学校教育目標」を最上位に据えた合意形成 ○自己目標と対話による資質能力と組織力向上 ○課題の洗い出し等による工夫・改善と効率化</p> <p>本校は小規模校であるため、全教師が学年を越えて生徒に対して指導にあたることのできることは強みである。多くの教師が見守ることができるため、学習に躓きがみられる生徒や生活指導上の不安がある生徒に対して、教師が関わりを持っていく体制は、来年度も続けていきたい。</p> <p>課題点は昨年度と同様に、ICTの活用技術において教師間に格差が生じがちであることである。生徒や保護者に対して、温かいコミュニケーションスキルとともに、ICTの活用スキルを磨くことも同時進行で高めていく。</p>	

2 改善方針

<p>【確かな学力の定着】 全国学力・学習状況調査等の客観的に可視化できるエビデンスをもとに、研修委員会や教科部会を通じて適切に分析し、現状把握と改善について情報を共有していく。また、生徒の個別最適な学びの構築のために、生徒の困り感に寄り添った授業実践に努める。</p> <p>【豊かな心と健やかな体の育成】 コミュニケーション力の未熟な部分を育てるために、道徳の授業だけでなく、日常生活の中で人権意識を磨く機会を増やし、豊かな心をもった生徒を育成していく。また、不登校やいじめの未解決だった問題の解消・解決に向けて、一人ひとりに応じた丁寧な対応を、教師同士や保護者からの情報を共有しながら、専門機関も交えて全員で取り組んでいく。</p> <p>【地域とともにある学校の構築】 新しい価値観に基づいて、地域の行事などについて学校として参画していく。その中核を担っていただくコミュニティスクール運営協議会の方々の意見を参考にしたり、学校関係者や地域協力者の方々との「普段着での連携」を重視していく。</p> <p>【学校の教育力・教師力の向上】 学校教育目標を中心に据え、リアルタイムでの双方向の情報交流を図りながら「チーム西陵」として何事にも取り組んでいく。主語を「自分」ではなく「西陵中」にした意識を全員が持ち、組織力向上を目指し、教師間のコミュニケーションを活発にしていける。</p>
--

【様式 1】

自己評価書

四日市市立 三滝中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	【知】 確かな学力の定着	3
主な方策 成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「先生は基礎的基本的な内容をていねいに分かりやすく教えてくれる」と回答した生徒は98%であり、昨年度よりもポイントが上がった。教師が基礎・基本を定着させるための授業改善に努めることができた。 ・「授業中意欲を持ち、友だちと教え合ったり、深め合ったりして学習している」と答えた生徒が93%であり、昨年度よりもポイントが上がった。アドジャン等、コミュニケーションを持つ機会を全校で取り組んでいる成果もこの結果につながっていると考えられる。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「少人数指導や個別学習、ティームティーチングなど、一人ひとりに合わせて分かりやすく教えてくれる。」と回答した生徒は82%であった。少人数指導をより効果的に改善する必要がある。また、そのような授業の工夫などが保護者に伝わっていない（「わからない」という回答）結果も出ているため、授業内容の発信も併せて充実させたい。 	
重点目標 2	【徳】 豊かな人間性の育成	4
主な方策 成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校教育目標が『人を大切にする』であることを知っていて、その実現にむけて努力している」と回答した生徒が96%であり、学校教育目標を理解して活動できている。 ・「人権学習を通して、一人ひとりを大切に、いじめや差別を許さない態度が身についてきている」と回答した生徒が96%であった。記述回答で人権学習の大切さについて回答している生徒も多く、自分たちの学校が大切にしている時間に対して、誇りを持っている様子が感じられる。それらが日常生活の改善にもつなげていけるよう、教師側の意識も高く持っていきたい。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「『朝の読書』などの読書活動により、自分の読書に対する関心が高くなってきている」と回答した生徒は84%であった。図書館の利用や司書の活用等、読書活動の取り組み方に工夫が必要である。 	
重点目標 3	【体】 健康・体力の向上 【安】 安心・安全	3
主な方策 成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学級や学年での友だち関係がうまくいき、楽しい学校生活が送れている」と回答した生徒が95%、「健康で安全な学校生活を送ることができている」と回答した生徒が96%と、学校が安心して過ごすことができる場所であると答えている。 ・「部活動や委員会活動に積極的に参加している」と回答した生徒は93%であった。多くの生徒が課外活動に積極的に参加できていると考える。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「先生やSCとの教育相談を通して、自分の思いを伝えることができている」と回答した生徒は、昨年度よりポイントは上がったものの87%であった。さらに教育相談や普段からの言葉がけを充実させて、生徒との関係を深め、気持ちに寄り添った支援ができるよう継続していく。また、SCやSSWへの積極的な接続も続けていく。 	

重点目標 4	【開】保護者・地域・関係機関との協働・連携	4
主な方策 成果と課題	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校を公開したり、学校通信を発行したりして、連携を深めようと努めている」と回答した保護者が100%であった。昨年度に比べて、学校通信やホームページによる発信が増えたことや、学級通信の発行も多くなったことが要因の一つと言える。継続してHome&schoolで学年通信を常に発信していることも評価をいただいている。引き続き、丁寧に情報発信を心がけていく。 ・体育祭や三滝祭（文化祭）についての好評価コメントも多く、大勢の保護者の方に来校していただくことができた。学校教育活動に関心が高い地域であることは大変ありがたいことである。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も参加行事の精選を行いながら、学校と保護者・地域とがどのように連携を図っていくか、協議しながら検討していく必要がある。 	

2 改善方針

- 学校づくりビジョン達成に向けて、引き続き、教科指導、学級経営、生徒指導、進路指導等に対し、『チーム三滝』を意識して取り組むことが大切である。
- 学力向上の取組・教科学習の充実
 - ・学習面において、生徒、保護者の肯定的評価が一層高まるよう、指導の充実を図り、取組の発信に努める。学習用タブレットの効果的な活用、個に応じた指導、教員の授業実践研修の充実や基礎学習・補充学習の活用・充実を図る。
 - ・地域子ども教室『三滝未来塾』の参加がさらに増加した。生徒の学習支援の場、または居場所としてより有効な活動となるよう、地域協力者との協議を重ねていく。
- 落ち着いた学校生活環境の継続徹底
 - ・特別支援・不登校対策委員会を中心にSCやSSW・各関係機関との連携を図りながら相談体制・支援体制を充実させていく。また、生徒による校則見直しの取組みを充実させ、自分たちの学校を自分たちでつくる意識の高揚につなげる。
- 人権・福祉・環境教育の充実
 - ・本校の大きな取り組みの一つである、一人暮らし等の高齢者の方への色紙を贈る取組は、地域と学校をつなぐ貴重な活動として継続（協力）していきたい。
 - ・さまざまな分野の方と生徒との交流体験の充実を図る。
- 家庭や地域の信頼に応える学校づくり
 - ・定期的な通信の発行及び学校HPの更新による情報発信は学校の大切な取組となる。さらに地域との連携に努め、教師・生徒の地域への参画・協働を進める。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 大池中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の定着	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none">・ 確かな学力の定着に向けた取り組みとして、学び合いのある授業を推進することができた。「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を心がけ、生徒が自らの理解の状況を振り返ることができるような発問、展開の工夫などを行った。2年生の数学の授業では、年間を通して、少人数授業を行った。生徒自身が「基本コース」か「標準コース」を選び、授業に取り組み、より個別に対応した学びに繋がった。・ 授業でICTを活用するだけでなく、宿題や予定連絡、予定変更連絡についてもICTを活用することで、不登校の生徒や欠席者にも広く学習内容や進捗状況を伝えることができた。・ 教育委員会主催の講演や学活・道徳等を通じて、家庭でのスマートフォンをはじめタブレットの適切な活用、メディアリテラシーの育成、学習に役立つ情報活用の指導を広く進めることができた。・ 全国学力・学習状況調査の結果の分析を行い、生徒に返却した。各教科において、課題となる点を意識して授業等を行った。	
重点目標 2	豊かな心と健全な体の育成	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none">・ 国際理解学習を通じて、多文化・異文化について理解し、心を通い合わせてより良い社会を作っていこうとする考えを身につけることができた。・ 四日市社会福祉協議会と連携し、視覚障害のある方から講演をしていただき、人権学習として学んできた内容を深めることができた。・ 体育祭を通して、学級の仲間と協力することの大切さを知り、自分の持てる力を発揮し、取り組むことができた。・ 道徳については、年間を通して継続的に取り組むことができた。教師がローテーションを行って指導をすることで、より多くの視点で生徒の様子をとらえることができた。・ SNSなど個人情報の発信に関してのトラブルや、相手の立場に立って発言をする意識の弱さなど課題がある。	

重点目標 3	よりよい社会を創造する力の育成	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパスポートの活用や進路適正検査（PASカード）などを活用して、中学校卒業後の進路選択について少しずつ考えることができた。 ・地域の天然記念物である御池沼沢の保全活動に参加して、活動することができた。 ・職場体験学習では、働くことの意義を考え、働くことの喜びや苦勞を体験することができた。いろいろな人と接する中で、自分自身の見方・考え方を広げ、社会人としてふさわしい言葉づかいや身だしなみ、マナーを習得しようとする姿が見られた。自分自身のこれからの「生き方」を考えるひとつのきっかけとなった。学習のまとめのスライド発表時には働くことの大切さや苦勞、将来に向けて、今自分がしなければならぬことなどを発表し、自身のこれからについて考えることができている様子が伺えた。 ・避難訓練等を実施することができ、タブレットを活用しながら地域の安全避難区域の確認を行った。地域の一員となって互助できる中学生となることを目指して指導した。 	

重点目標 4	子どもの学びを支える学校づくり	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な学年会や校内委員会を開催して、生徒の様子を把握し、必要な対策を考えることができた。またSC、SSWと協力して生徒の心のケアや保護者のケアも行った。様式3を活用して、生徒の状況把握や今後の支援について検討することができた。校内ふれあい教室の担当が常駐しているため、生徒それぞれのニーズに合った時間に登校することができている。 ・学びの一体化で各校・園での取り組みを共有し、小学校の学習状況を知ることで次年度につながる取り組みができた。 ・支援ファイルを活用し、保護者の願いを聴きとり、教職員への情報共有をはかることができた。ただ非常勤の先生への情報共有は難しく、記載内容の表現の仕方は保護者の気持ちを害しないよう配慮する必要がある。 ・Q Uや学校生活アンケートなどの結果から、生徒や学級の様子をチームとして捉えて対応することができた。 ・進路選択に向け、基礎学力定着の取り組みを継続的に行った。 	

2 改善方針

・各種調査の分析や結果を今後の指導に組み入れて効果的なものにできるよう、具体的な方法を今後も考えていく必要がある。
 ・学習内容の精選を行い、粘り強く取り組ませていく指導が必要である。
 ・コミュニケーション能力向上のため、ワークショップ等をたくさん取り入れる。また、スクールライフノート等を活用し、生徒とのコミュニケーションも図っていく。
 ・ICT機器を積極的に活用した授業を行い、成果をあげている。今後も「生徒たちに身に付けさせたい力」を明確にし、学習の充実を図る。
 ・キャリア教育の一環で実施している「職場体験学習」について、現代に合った新たな事業所を開拓し、生徒たちの視野が広がる取組ができるよう学習を推進する。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 朝明中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	子どもの未来を見据え、チャレンジする学校づくり	3
主な方策 成果と課題	<p>「学校教育目標・学校づくり」 3.8（教職員）、3.2（保護者） 「ビジョンの実現に向けた努力」 3.7（生徒）、3.8（教職員）、3.2（保護者） ※「学校教育目標・学校づくり」は生徒のアンケートを実施していません。</p> <p><成果> ○教員が研修等で学んだことをすぐに授業等で活用したり、その情報を広げたりする姿がみられた。特に、道徳の研修を通じて、「考え、議論す道徳」を推進し、ICTを活用して活発な話し合いを推進し、全教員がその手法を学ぶことができた。</p> <p><課題> ●教科授業では、生徒の主体的な学びが深まるような具体的な方策や評価のあり方についてさらに研修を推進する必要がある。</p>	
重点目標 2	主体的に考え判断し、自律的に行動する生徒の育成	4
主な方策 成果と課題	<p><アンケート結果> 「授業の充実」 3.5（生徒）、3.6（教職員）、2.8（保護者） 「道徳・人権教育の充実」 3.7（生徒）、3.8（教職員）、3.2（保護者） 「特色ある教育活動の編成」 3.6（生徒）、3.7（教職員）、3.2（保護者）</p> <p><成果> ○自主学习ノートを全校で取り組むことができた。 ○本校の伝統である箏の演奏を、地域の専門家を招聘し、充実した体験となった。また、今年度も特別支援学級発表会で箏の演奏を披露することができた。 ○総合的な学習の時間を活用して、地域理解学習やHUG講座、マナー講座、その道のプロに聞く等、特色ある取り組みを進め、学習を深めることができた。 ○道徳教育では、「考え、議論する道徳」について3年目の取り組みであった。これまでの取り組みが生徒の変容につながり、アンケートでも道徳の時間を肯定的にとらえている意見が多かった。 ○キャリア教育の一環として、職場体験学習を実施した。生徒も保護者も職場での学びを高く評価していた。</p> <p><課題> ●自律した学習習慣の定着を図るため、全校で取り組んだ自主学习ノートの効果について検証するとともに、個に応じた学び方を身に付けられるよう工夫・改善をすすめていく。 ●授業では、生徒が対話を通して主体的に学ぶ場をさらに増やし、学ぶ意欲が高まるような指導の工夫をさらにすすめる必要がある。</p>	

重点目標 3	安全・安心な居場所としての学校づくり	4
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>「いじめ等への対応」 3.7（生徒）、3.7（教職員）、3.1（保護者） 「教育相談の充実」 3.5（生徒）、3.8（教職員）、3.2（保護者） 「通学路の安全」 3.7（生徒）、3.7（教職員）、3.2（保護者）</p> <p><成果> ○月1回のいじめアンケートを行い、早期対応を組織的に行うことができた。 ○教育相談を充実させ、生徒に寄り添ったコミュニケーションを大切にすることができた。 ○登下校時の通学について、生活安全委員会を中心に生徒が意識調査をしたり呼びかけを行ったりして、交通マナーについて考える機会が増えた。 ○全職員が教室に入りにくい生徒や遅刻する生徒に温かく接し、校内ふれあい教室の利用や放課後登校など様々な居場所を確保することができた。</p> <p><課題> ●登下校時の通学については、交通マナーなどの安全指導を行うとともに、保護者や地域と連携して、課題解決に向けて引き続き取り組みを進めていく。 ●日常の生徒間トラブルについて、日頃から生徒の様子を見取り、早期発見に努め、生徒が自らの問題を解決する力を育むような取り組みを進める。</p>	

重点目標 4	家庭・地域の信頼にこたえる学校づくり	4
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>「保護者や地域の人たちとの連携」 3.5（生徒）、3.7（教職員）、3.3（保護者） 「情報発信の努力」 3.9（教職員）、3.3（保護者） 「情報受診の努力」 3.7（教職員）、3.1（保護者） 「教職員の対応」 3.8（教職員）、3.4（保護者）</p> <p>※「情報発信の努力」「情報受診の努力」「教職員の対応」は生徒のアンケートを実施していません。</p> <p><成果> ○コミュニティスクール運営協議会を年4回開催し、多くの有益な助言をうけ、学校づくりに反映することができた。 ○毎日ホームページを更新し、本校の様子を発信するとともに、学校だよりを始め、学年通信や学級通信などを積極的に活用することができた。 ○地域行事に生徒が参画し、運営に携わることで地域に貢献することができた。 ○保護者や本校来校者に対し、誠実に対応することができ、保護者の評価も高い。</p> <p><課題> ●今年度から地域行事への生徒の参画を進めたが、継続した取り組みとなるよう地域との連携を密にするとともに、学校組織への位置づけを進める。</p>	

2 改善方針

学校づくりビジョンに掲げる「めざす学校の姿『魅力ある学校～笑顔と感動』」「めざす生徒の姿『自分と仲間を大切に～調和と協調～』」を実現できるよう教育活動に取り組む。

＜重点1＞生徒の未来を見据えた取り組みを充実させるため、ビジョンにあるめざす生徒の姿を意識して、次年度以降もよりよい学校づくりにチャレンジできる組織を育てる。

＜重点2＞来年度は、生徒も教員も「言葉をあやつる」ことをテーマに、より主体的に考え判断し、自律的に行動する生徒の育成を図るための研修を推進する。

＜重点3＞本校の継続した課題である通学路の安全対策については、地域から様々な意見が寄せられている中、引き続き交通ルールに関する規範意識を高める取り組みを進めるとともに、保護者・地域・関係機関と連携し交通安全指導とマナーの向上に努めたい。また、増加する不登校に対応するため、わかる授業づくりや魅力ある行事を実施し、未然防止に努めていく。さらに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、登校サポート教員、教育相談担当、関係機関と引き続き連携し、生徒や保護者への丁寧な対応と不安感払拭に努め、生徒や保護者が見通しが持てるよう、計画的な支援を組織的に進めていく。

＜重点4＞総合的な時間に地元の方を招いたり、地域理解学習や地域貢献活動に取り組んだり、値域の行事に参画したり、学校公開週間を設けたりして、今後も学校行事や地域学習など地域や保護者との連携し、地域信頼にこたえる学校づくりを推進していく。

【様式 1】

自 己 評 価 書

四日市市立 保々中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	人を大切にし、気持ちよくあいさつする生徒を育てます	3
主な方策 成果と課題	<p> <取り組み指標> ①生徒全員が、教員から少なくとも1日に一度はあいさつを含めて共感的声かけを受けられるようにします。 ②あいさつの指導を継続的に行います。 ③日常生活や行事等での「ありがとうメッセージ」等に取り組みます。 <結果指標>『自分からあいさつしている』という生徒の割合90%以上をめざします。⇒結果、85.3% (昨年度85.1%) </p> <p> あらゆる教育活動を通して、自分も人も大切に作る気持ちを持ち、「豊かな感性」(だいすき・つながる)を育てるべく、人権教育を根幹に据えてなかまづくりを進め、「あいさつ」を象徴的に提示し、取り組みを進めてきた。 具体的には取組指標に加え、日常的な教職員からのあいさつや声かけ、生徒会活動でのあいさつ運動、授業や部活動でのあいさつ、道德等の授業であいさつの意義や人を大切にすること、人とつながることなどを指導している。 </p> <p> <成果と課題> ・様々な取組(生徒会活動の「あいさつ運動」、講師を招いての「マナー講座」等)によってあいさつがほとんどの生徒に習慣化し、定着してきている。今後もあいさつのできるよう取り組みを進めていく。 ・地域の方や来客から「保々中学校の生徒はよくあいさつをしてくれる」といった声をよく聞かせていただいております。その声を生徒に伝えていくことで自発的なあいさつへとつなげていきたい。 </p>	
重点目標 2	ていねいに掃除や身の回りの整理・整頓に取り組む生徒を育てます。	3
主な方策 成果と課題	<p> ①清掃方法を工夫・改善し、はじめと終わりの点呼・あいさつ・指示・評価を行います。 ②掃除や整理・整頓の指導を継続的にいき、「がんばってるねメッセージ」等に取り組みます。 ③様々な場面で、当たり前前を当たり前前できるように継続的に指導します。 <結果指標>『ていねいに掃除や身の回りの整理・整頓をしている』という生徒の割合を90%以上めざします。 ⇒結果、86.0% (昨年度88.4%) </p> <p> あらゆる教育活動を通して、自らの課題克服に向けて粘り強く取り組もうとする気持ちを持ち、当たり前前が当たり前前にできる力、「やり切る態度」(じっくり・やってみる)を育てるべく、「掃除」を象徴的に提示し、取組を進めてきた。 具体的には取組指標に加え、清掃点検カードを使っての毎日の清掃時の指導と評価、掃除用具の工夫や分担、日常的な整理・整頓に向けた各学級での取組や個別の関わり、継続的に粘り強く活動するためのていねいな言葉かけやサポート、個々の努力が周りの生徒に認められる場面の設定などに取り組んでいる。 </p> <p> <成果と課題> ・掃除の時間では、小学校からの取組の成果もあり、一生けん命に取り組む生徒が多い。しかし、今後は教師からの指示でなく、自分で考えて動ける生徒になるよう取り組みを進める。掃除を通して、将来の「やり切る態度」が育っていくことを継続的に意識させていく必要がある。 ・与えられたスペース(ロッカー等)での整理・整頓が苦手な生徒が多い。整理・整頓の意義(他者への配慮・効率等)を意識させることで将来の生きる力につなげていきたい。 </p>	

重点目標 3	時間や期限を守り、授業を大切にしている生徒を育てます。	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p><取組指標> ①授業の始まりと終わりを大切に、宿題や自主勉強ノートの指導（点検・評価）を継続的に進めます。 ②時間や期限を守る指導を継続的に進めます。 ③自分の生活を振り返り、自分自身を向上させる指導を行います。 <結果指標>『時間や期限を守り、授業を大切にしている』という生徒の割合90%以上をめざします。 ⇒結果、90.4%（昨年度91.0%）</p> <p>あらゆる教育活動を通して、時間や提出物の期限を守り、学ぶ意欲をもって主体的に授業に参加しようとする「生きぬく基礎」（すこやか・まなぶ）を育てるべく、「時間」を象徴的に提示し取組を進めてきた。 具体的には取組指標に加え、委員会活動でのベル席チェックやリーダー会からの声かけ、教師自身が授業時間を守る姿勢、わかる授業をめざした授業改善、指導と評価の一体化等の取組を進めている。</p> <p><成果と課題> ・生徒会、委員会活動や学級での取組、また教師が授業時間の確保を大切にしてきたことで、多くの生徒が時間を守り、落ち着いて学びに向き合う姿勢が定着してきている。 ・多くの生徒は提出物を期限通りに出すことを意識できているが、教師の支援、声かけがないとなかなか提出できない生徒もいる。時間、期限を守ることが信頼へとつながっていくことを意識させたい。 ・班活動やペア活動では意欲的に学習に向き合うことができるが、生徒が主体的に授業にむきあうために、授業づくり、授業改善など教師のさらなる研鑽が必要である。</p>	

重点目標 4	生徒の保々地区への愛着の気持ちを育てます。	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p><取組指標> ①各学年、教科、委員会、有志等がボランティア活動や文化活動、校外活動等の地域に出向いて行う活動を継続します。 ②各種団体行事、地域奉仕活動、各種防災・避難訓練等への参加やあいさつ運動、交通安全活動を通して、「中学生も地域から頼りにされている」と実感させます。 <結果指標>『保々地区が好き』という生徒の割合90%以上をめざします。 ⇒結果、91.9%（昨年度88.4%）</p> <p>教育活動の中で、自主的に地域の活動に参加したり、地域の人たちと関わりを持つことを通して、「地域への愛着」を育てるべく、取組を進めてきた。</p> <p><成果と課題> ・コミュニティスクールを中心に、特別支援学級の農園活動をはじめ、地域の方から授業支援をしていただいた。また、除草作業などの環境整備への協力をしていただくことで普段の学校生活の中でも地域の方と触れ合う機会を持つことができた。 ・地域の活動であるプラザ学習へ意欲的に参加する生徒も多く、人権プラザ小牧文化祭で上演する人権劇では、多くの地域の方の前で堂々と演じることができた。 ・各地区で行われる総合防災訓練への積極的な参加を呼びかけているが、参加者を増加させることが課題である。中学生は地域の活動を担う中核であることを意識させていきたい。</p>	

2 改善方針

○今後も生徒や職員に定着してきている重点目標の「あいさつ」「掃除」「時間」「地域への愛着」を継続して取り組んでいく。

○重点目標1にかかわって

挨拶の取組を通して、他者理解を深めることが人を大切にする心を育て、周りからも自分が大切にされることを実感できる人権感覚豊かな生徒を育てていく。将来の「豊かな感性」につながることを生徒も職員も意識して今後も継続して取り組んでいく。

○重点目標2にかかわって

清掃活動や整理整頓の取組を通して、日常、継続的に行っている活動が将来の「やり切る態度」につながることを意識してより丁寧に、当たり前にすべきことを当たり前に行う力を付けていく指導を継続していく。

○重点目標3にかかわって

時間や提出物の期限を守る取組を通して、社会に出て与えられた責任を果たせるための「生きぬく基礎」を育てていく指導を継続して行っていく。また、自ら学ぼうとする意欲を育てることでこれからの未来を切り拓く力を育てていく。

○重点目標4にかかわって

地域への愛着という点では、生活の基盤である場所が当たり前すぎてその素晴らしさに気づけていない。教科横断的に様々な教材を使い、地域の特色や魅力を感じられる取組を行っていく。さらに、地域人材の活用も積極的に行っていく。また、これからの地域の担い手であることを実感するために地域の活動に積極的に参加できるよう働きかけていく。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 常磐中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	確かな学力の定着と指導の充実	4
主な方策 成果と課題	<p>学校アンケート結果によると、生徒の96%以上が肯定的な評価を示しており、保護者の評価も86%と高い水準である。特に数学と英語の授業では、少人数制やチームティーチングを導入し、生徒一人ひとりに合った指導を行っている。また、ICT機器を活用した授業も進めており、生徒の興味関心を引く工夫がされている。</p> <p>家庭学習の習慣化にも力を入れており、Tokiノートやドリルパークを活用した予習・復習が行われている。学年が上がるにつれ学力の定着が見られ、特に3年生は、全国・学力学習状況調査の「授業時間以外の学習時間」について、県や全国に比較して多く時間をとっているなど、家庭学習の習慣化の成果が顕著である。ただ、1、2年生のときからの定着はまだできていないことも課題である。今後も、生徒が主体的に学習に取り組めるよう、授業の質を向上させる取り組みを続けていく。</p>	
重点目標2	豊かな人間性の育成	4
主な方策 成果と課題	<p>今年度の学校アンケートでは、90%を超える生徒が「学校では、道徳や人権の大切さについてよく学習できる」と回答しており、学校の取り組みが評価されている。道徳の授業や人権学習においては、ICTを活用して生徒の意見交換を促し、考えを深める工夫がされている。また、「『ともに生きる』ってどういうこと」をテーマにした人権講演会や人権フォーラムは、「自分と人権問題とのかかわり」を深く学ぶ良い機会となっている。</p> <p>総合的な学習の時間には、3年間を通して進路学習・キャリア学習に取り組んでおり、1年生では職業ガイダンス「ザ・プロフェッショナル」、2年生では「職場体験学習」、3年生ではドリームマップの作成などを行い、進路選択に繋げている。また、1年生で福祉体験学習としてSSピンポンを体験するなど、様々な活動を取り入れている。今後も、生徒の豊かな人間性の育成を目指して、生徒が主体的に学ぶことができる活動を進めていく。</p>	
重点目標3	生徒指導・生徒理解の充実	3
主な方策 成果と課題	<p>生徒指導においては、生活委員会の取り組みやあいさつ運動を通じて、生徒の規律やマナーの向上を図っている。アンケート結果では、生徒の多くが規律を守り、落ち着いて授業を受けていると回答しているが、一部の生徒については改善の余地がある。休み時間には「ふれあいタイム」と称して教員が生徒の様子を見て積極的に関わり、生徒の理解を深め、よりよい関係づくりの機会としている。授業開始3分前には授業の準備をして着席できるよう、生活委員や室長を中心に生徒同士が声をかけあっている。</p> <p>各学期に行う「いじめ調査」だけでなく、連絡ノートや教育相談、生徒の様子の変化などから、積極的にいじめ等の問題を把握し、スクールカウンセラー（SC）やスクールソーシャルワーカー（SSW）と連携して早期の解決に取り組んでいる。</p> <p>今後も、生徒一人ひとりの理解を深め、適切な指導を行うための取り組みを続けていく。</p>	

重点目標 4	教職員の指導力の向上と組織の活性化	4
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>教職員の指導力向上を目指し、研修や情報共有の機会を積極的に設けている。学校アンケート結果では、教職員の多くが自己研鑽に努めており、生徒指導や授業改善に積極的に取り組んでいるとともに、教職員間のコミュニケーションを密にし、組織全体の活性化を図っている。本校内の全体公開授業については、3年生の担任が道徳学習を行い、全学年で道徳の考え方や価値観を共有することができた。また、他の教員は個人公開授業として、「生徒が自分の考えを広げたり、深めたりできる『生徒と生徒の関わり』を意識した授業」を全員が行い、互いに参観して研修を深めた。</p> <p>研修委員会、生徒指導委員会、人権教育委員会、不登校対策委員会、特別支援委員会、学年主任による代表者会には管理職が入り、それぞれ時間割上に位置付けて週に1回会議を行い、現状や進捗状況を確認し、学校全体で共通理解を図りながら取り組みを進めることができるようにしている。</p> <p>今後も、教職員の専門性を高めるための研修や情報共有を継続し、組織全体の活性化を図っていく。</p>	

重点目標 5	保護者・地域・関係機関との協働による学校づくり	4
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>保護者や地域、関係機関との協働を通じて、より良い学校づくりを目指している。アンケート結果では、保護者の90%以上が学校の取り組みに肯定的な評価を示している。職場体験学習や福祉体験学習など、地域との連携を深める活動が好評である。また、学校だよりやホームページを通じて、保護者への情報発信を強化し、学校と家庭が連携して生徒の成長を支えている。</p> <p>学校公開を3回、体育祭、文化祭とも保護者や地域関係者に参観していただいた。定期的な「学校だより」や「学年通信」の発行、学校ホームページの更新を行っているが、より情報共有・共通理解を図れるようにしていきたい。また、学校アンケート等を通じていただいた保護者からの意見をより良い学校づくりに生かしていきたい。</p> <p>今後も、地域全体で子どもたちを育てる雰囲気醸成し、保護者や地域と協力して教育活動を進めていく。</p>	

2 改善方針

生徒の主体的な学習の促進

生徒の学力向上に向けた取り組みが進んでいるが、1、2年生の家庭学習の定着が課題である。生徒が主体的に学習に取り組めるよう、小集団やグループ活動の場面を多く取り入れ、わかる・楽しい授業を実現したい。また、家庭学習の習慣化を支援するため、保護者との連携を強化するとともに、Tokiノートやタブレットの活用を行い、粘り強く定着を図りたい。

生徒指導・生徒理解の充実

生徒指導やいじめ防止に取り組んでいるが、一部の生徒に対する対応が課題である。いじめ防止対策をさらに強化し、早期発見と迅速な対応を徹底するためのシステムを整備する。教員による休み時間の「ふれあいタイム」を継続し、より多くの教員が生徒と関わりを深めるとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなど各関係機関と連携して、生徒一人ひとりに応じた対応をしていきたい。

保護者・地域との連携強化

保護者や地域との協働が進んでいるが、さらなる情報共有が求められる。保護者や地域との連携を深めるため、通信やホームページなどの定期的な情報発信を強化し、学校の取り組みや生徒の様子を共有していきたい。また、保育園、幼稚園、小学校、地区市民センター、社会福祉協議会など、地域全体で子どもたちを育てる環境を引き続き整えていきたい。

【様式 1】

自己評価書

四日市市立 西笹川中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	キャリア教育の充実と進路保障	3
主な方策 成果と課題	<p>各学年の活動を通してキャリア教育の充実を図った。各学期に1名以上の外部講師を招聘し、海外滞在の経験等多文化の視点で講演会をしていただき、自らの生き方を見つめる機会を多く設けた。</p> <p>2年生は自分の興味・関心に応じた職場で職場体験学習を実施した。「時間の意識」や「挨拶」等実生活に必要な学習をすることができた。また、3学期の名古屋への社会見学では、「防災」「国際」「福祉」に関する施設を訪問し、聴き取り学習を行うことで、主体的な生徒の育成のスムーズステップとなった。</p> <p>3年生の修学旅行では、県外へ行くことで集団活動の大切さや班別分散学習での協力について学ぶことができた。「キャリア教育」の評価について保護者は78.2%から66.9%に下がり、生徒は68.6%から76.5%に肯定的評価が上がった。保護者には、学校での「キャリア教育」について積極的に公開をし、その意義を感じていただきたい。</p>	
重点目標 2	毎日登校し、授業を真剣に受けようとする態度の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>本年度も学校運営協議会委員の方をはじめ、四日市市教育委員会の指導主事や外部講師等多くの方に授業の様子を参観していただいた。また、本年度は県教育委員会の「令和6年度外国人児童生徒等への日本語指導指導者養成研修」の実践校となり、他県の日本語指導コーディネーターからご助言をいただくことで、本校の研修の柱であるJSLカリキュラムを意識した教師の指導力が向上した。また、すべての教員がほぼ毎時間にICT機器を活用し、GIGAスクールを意識した授業を行うことで、外国にルーツのある生徒の理解の一助にもなった。1時間1時間の授業を大切に、真剣に学習に取り組んでいる姿を外部の方から評価していただいた。</p> <p>一方で本校の課題でもある不登校生徒については、昨年度より減少傾向にある。本年度から新設された「校内ふれあい教室」が功を奏し、教室には入れなくとも学校に登校できる生徒が増えた。また、担任だけでなく、学年がチームとなって「家庭訪問」や「電話連絡」を欠かさず行っていることも大きな要因となっている。次年度も、教育相談週間やSC、SSWと連携をした取り組みや、校内ふれあい教室の活用で一人でも不登校生徒の削減につながるよう努力していきたい。</p>	
重点目標 3	自ら進んで挨拶をし、環境美化に努め、時間を大切にしている生徒の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>校内外ともに生徒は良く挨拶をし、地域の方からもお褒めの言葉をいただくことが多かった。今年度は始業式から、「あいさつ」の徹底を呼び掛け続けたことで、学校集会でも大きな声であいさつをする生徒が増えた。さらに、たくさんの講演会で外部の方を招聘していることで、感謝の拍手の仕方は本当に温かい響きとなった。</p> <p>環境美化については、校内での清掃時間には一生懸命に清掃に取り組むことができる生徒が多く、生徒アンケートにおいても、83.2%の生徒が「ていねいに掃除や身の回りの整理・整頓をしている」と答えている。時間に対する意識は、昨年は84.1%であったが、今年度は78.8%の生徒が「きちんと時間や期限を守っている」と答えた。最近はスマホで自分の好きな時間に、ゲームをしたり動画を観たりして時計を意識した習慣が減少傾向にある。家庭でも呼びかけていただくと共に、学校では授業前の2分前着席やリーダーによる呼びかけ等を徹底していきたい。</p> <p>また、朝の遅刻が多いなど生活習慣が乱れている生徒も一定数存在する。家庭事情が大きく影響しているが、自らの力で時間を守ることの大切さを学校では指導していきたい。</p>	

重点目標 4	よりよく生きるための学力保障	3
主な方策 成果と課題	<p>本年度は、学習環境のICT化が日常化をしており、全ての授業でもタブレットを使用して情報収集やドリル学習を行っている。また、毎日タブレットを家へ持ち帰る習慣が身につく、宿題や自主的な学習を進めるツールとなってきた。このような中、生徒は授業中もICT機器を自由に使いこなし、学習の個別最適化について徐々に進んでいる。しかしながら、学校評価アンケートの、「確かな学力」の評価項目で生徒が87.6%、保護者が80.7%や「個に応じた指導」の評価項目では生徒95.5%、保護者は79.5%という結果になった。そのため、タブレットを学習以外にも使用方法を習得し、学習の弊害となっている課題もみえてきた。タブレットの使用方法については、生徒指導の面からもネットモラルを充実させていきたい。一方で、「友だちの前で自分の考えや意見を発表することが得意だと思う」の評価項目では、生徒の肯定的回答が昨年度52.0%から60.3%と飛躍的な伸びしろの値となった。昨年度、一昨年度と比較して授業内で自分の考えや意見を発表する機会が増えたことが要因と言える。また、「授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つと思う」では、生徒が90.4%と肯定的な回答をしている。この設問に対して、3年連続90%以上の肯定的な回答を得ている。多くの生徒がキャリア教育を通して、授業の大切さを理解していることが要因といえる。</p>	

2 改善方針

次年度に向けて次の4点を改善していきたい。

- 1 多文化共生教育のさらなる充実
 - ・ 多様な講演会やパネルディスカッション等を通して、自身の中に多文化共生の考え方を根付かせるとともに、将来の多文化共生社会の実現に向けて自ら行動する力を養う。
- 2 登校サポート体制の充実
 - ・ 不登校生徒に対する支援体制を充実し、校内ふれあい教室や外部の専門機関とも連携をとりながら、保護者との連携を密にしつつ、個に応じた学習の機会を増やす取り組みを進める。
- 3 キャリア教育の充実
 - ・ 実体験を基盤にしたキャリア学習に取り組み、自分の将来の夢や志について具体的にイメージをもち、発表できるよう学習を進める。
- 4 学力向上の取組
 - ・ ICT機器の有効活用を進め、学習の個別最適化を図る。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 三重平中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	「主体性」のキャリア	3
主な方策 成果と課題	<p>①「夢・志・目標」「自律」へのキャリア発達 ②自尊感情・自己有用感・自己効力感アップ ③主体的・対話的深い学びに基づく学習『ダイラ・スタイル（けてぶれ）』 ④創造的なICT活用 ⑤主体的な放課後活動「放課後デザイン」 ⑥「チーム担任制」</p> <p>・生徒の主体的な取り組みとして、本校の特徴的な「放課後デザイン」の推進により、放課後の過ごし方を選択でき、自己の目標を立て、計画的に行動し、自己評価をしたり、新たな目標設定をして取り組んだ。（学校部活動、サークル活動、校外活動、自宅での過ごし方等）生徒アンケート「本校の特色ある活動を効果的に活用できているか」「自分に主体性の力がついていと感じるか」の問いに生徒は88パーセントが肯定的に回答している。</p> <p>・「夢・志」をもってキャリアデザインに取り組み、様々なキャリアをもった方々と出会う機会を設けた。一方、学力向上をめざし、「けてぶれ学習」を進めているが、生徒アンケートにおいて、「家庭学習が定着していない生徒」の割合が38%あり、今後、「学び方」を学ばせたり、主体的に学習に向かう態度「学びのエンゲージメント」（非認知能力）の視点で、授業改善や手立てを丁寧に進めていく必要がある。</p>	
重点目標 2	「協働性」のキャリア	3
主な方策 成果と課題	<p>①「平っ子タイム」 ②安心安全な学校生活/相談体制・サポートルームの活用 ③「人を大切にする」人権意識 ④特別支援の充実、多様性の尊重 ⑤生徒がつくる学校行事Dairampics ⑥健康体力づくり・食育 ⑦防災・安全教育</p> <p>・毎週木曜日の放課後に「学習相談・教育相談」の時間を確保し、生徒個々への支援を行ってきた。生徒アンケートの「相談体制」「人権学習への取り組み」では、約90%が肯定的に回答し、活用、取り組んでいる。加えて、SC、SSWと連携し、新たな不登校生徒を出さないよう努めた。また、不登校（傾向）生徒には校内サポートルームの活用と、本人の意思を確認し、エネルギーを充足させる支援・指導に努めている。</p> <p>・1年の「ダイラ・ウォッチング」で地域を歩き、地域を防災、交通安全の視点で調査した。それらのまとめを、地域にプレゼン、提言する機会をもった。中学生が主体となって、地域に発信し、地域と協働して進める取り組みを今後も継続していく。</p>	

重点目標 3	「社会性」のキャリア	3
主な方策 成果と課題	<p>①社会的・職業的自立に向けた4つの力 ②道徳心・規範意識・「ダイラのふるまい」 ③読書を通じた学び ④多様な人との出会い ⑤社会的学習プログラム創設「四日市学」「マーケティング学」 ⑥ボランティア活動</p> <p>・「日本一のあいさつ学校」「ダイラのふるまい」を掲げ進めている。生徒アンケートでは「自ら進んであいさつをしているか」の問いに、90%の生徒が「している」と回答しているが、十分でないのが実際である。また、登下校時等、車が停車し、道を通してくれた際に、「立ち止まってお辞儀し、感謝の意を伝える」姿は、各方面から大変好評で、評価されている。社会の中で「ダイラのふるまい」が評価されることで、生徒たちが「道徳心・規範意識」を発信していけるようにしたい。</p> <p>・社会的学習プログラムを創設し、「四日市学」「マーケティング学」に各学年で取り組んだ。「四日市」について「地域の防災、安全」「地域・ブランド力」「ふるさと納税」をテーマに調査・検証・発表を行い、学習を進めることができた。今後もキャリア教育を進め、未来を切り開く力をつけていきたい。</p>	

重点目標 4	みんなの学校	3
主な方策 成果と課題	<p>(1) 学校を支えてくれる力 ①保護者/学校運営協議会/地域/さんさん/関係機関/専門家/産官学連携/ ②学びの一体化(地域の異校種連携)</p> <p>(2) ワーク・ライフ・バランス ①働き方改革・業務時間&業務内容精選・校務DX促進 ②教師力資質向上</p> <p>・今年度からスタートした「放課後デザイン」は学校が主体ではなく、PTA、コミュニティスクール、総合型地域スポーツクラブさんさん、学校の4種で「運営委員会」を設置し、連携して運営している。部活動の地域移行に向けさんさんが、放課後の学習会にはCSが、サークル活動の支援、見守りにPTAが、と役割を分担して取り組んでいる。放課後デザインでの生徒たちの活動には「学校を支えてくれる力」なくして成り立たず、地域からも大切にされている。</p> <p>・キャリア教育を進めるにあたり、三重地区・神前地区市民センターや連合自治会にご意見や場所の提供等のご協力を得ることができた。また、近隣の四日市商業高校には、学校見学や漫画イラストサークルの支援などいただいている。今後も地の利を生かし、教育を推進していきたい。</p>	

2 改善方針

<p>・今年度「学校づくりビジョン」の則って、多くの新たな取り組みに挑戦することができた。今後は、取り組みの時期を整理、分散し、計画的に見通しをもって進めていく。</p> <p>・キャリア教育をさらに一歩進めることができた。令和の日本型教育をさらに追求し、ICTの全般的活用、授業改善、学力向上への手立てを進めていく。</p> <p>・学び続ける教職員であるために、同僚性を生かし、日々のOJTを一層進め、ICTスキルの向上や、必要とする研修をミニ研修会なども含めて企画し、進めていく。</p> <p>・本校の課題である「学力向上」に向け、学習意欲を引き出す学習指導改善や非認知能力を育む手立てを追求していく。仮説を立て、実践、検証する、また、次をめざし「OODAループ」の4ステップで確認し、進めていきたい。</p> <p>・さまざまな研修会に参加し、還流し合うことで教職員の資質向上を図っていきたい。</p>
--

【様式1】

自己評価書

四日市市立 羽津中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	確かな学力の定着とICT教育の推進	3
主な方策 成果と課題	<p>○主体的・対話的で深い学びの実現 本校では、独自の家庭学習ノート「デイリースタディ」を活用した家庭学習に継続して取り組んでいる。生徒が自分で課題を考え、自分の力を伸ばしていけるような取り組みを行っている。生徒が効果的な家庭学習に取り組めるよう「ベストデイスタ」と称し、優れた取り組みを紹介している。</p> <p>○ICTの活用した授業改善 様々な場面でICT機器（タブレットなど）やクラウド（Googleクラスルームなど）、オンライン教材（iプリ、ドリルパークなど）を、授業に積極的に取り入れる授業づくりを行った。そのため、生徒が自らタブレットを活用し、学習に取り組む姿勢も出てきた。</p> <p>来年度は、更に、「視覚化・焦点化・共有化」できる授業を目指したい。また、スクールライフノートを活用し、家庭学習の充実と生徒の心の変容を把握し、今後も、より効果的な活用方法を模索していく。</p>	
重点目標2	こころとからだの健全な育成	3
主な方策 成果と課題	<p>○羽津中らしい教育の推進 山のコンサートや文化祭、体育祭の生徒会ダンスなど、羽津中らしい活動を実施することが出来た。来年度も、山のコンサートや生徒会ダンス、本物の文化・芸術体験等を通し、生徒が主体的に活動する場面作りに取り組んでいきたい。</p> <p>○読書活動の充実 読書活動推進校の2年目として、読書活動の活性化に継続して取り組んだ結果、昨年度同様、5000冊を超える貸出冊数となった。また、図書館司書と担当教員で、読書活動推進のための、授業や図書館の整備に取り組めた。</p> <p>○人権活動の充実 学校評価アンケートにおいて、「様々な差別などの人権問題の解決に向けて考えることが出来た」と97.5%の生徒が肯定的な回答を示した。今後もアウトプット型の人権学習に取り組む。</p>	
重点目標3	よりよい未来社会を創造する力の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>○キャリア教育の推進 「つながる力」「みつめる力」「うごく・いかす力」「めざす力」の4つの力を意識した授業や講演会をはじめとしたキャリア学習、職場体験などの校外活動を行うことができた。また、今年度から始めた「羽津みタイム」（ショートグループエンカウンター）はキャリア学習に大変有効であり、今後、学びの一体化において、小学校とも連携していく。</p> <p>○防災・安全教育の推進 地区別集会や安全点検にタブレット端末を活用して効率化に取り組んだ。生徒における安全委員会の活動や教職員による下校指導など、交通安全については例年通り取り組んでいる。防災教育については、1年生における防災教室や羽津地区まちづくり推進協議会主催の防災講演会を本校で実施するなど、行政、地域と共に取り組む防災教育を今後、更に発展させていく。</p>	

重点目標 4	子どもの能力を伸ばす教育の充実	3
主な方策	<p>○指導・支援体制の充実 校内登校サポート委員会を中心に。SCやSSWなど多くの専門家から生徒支援に関する具体的なアドバイスを受けることができ多くの学びを得ることができた。今後は支援の方法などの共有にとどまらず、その支援を具体的に「誰がどのように行うか」をはっきりさせて支援していくことが効果的な支援につながると考える。</p>	
成果と課題	<p>○特別支援教育の充実 個々の生徒への支援の手立てや全校生徒を対象とした共通の支援策などを特別支援委員会で情報を共有し、具体的な支援に生かすことができた。今後も情報の共有にとどまらず、支援内容の検討および実施に重点をおいた委員会として機能させていきたい。また、特別支援学級の運営においても、全教職員が教科指導の実施や授業サポート、生徒サポートにあたり、生徒が安心して学校生活を送れるよう努めてきた。</p>	

重点目標 5	学校教育力の向上	3
主な方策	<p>○積極的生徒指導の実践 生徒指導委員会が中心となり、生徒の情報を全教師がいつでも状況把握できる状態にして情報共有を行った。いじめにつながる問題行動については、被害を訴える生徒に寄り添い、事実確認とともに、当該生徒同士の関係修復に努めた。また、不安を訴える生徒ならび保護者への対応もSC、SSW、学年担当、管理職等の「チーム学校」で方策を立て、家庭訪問やカウンセリングを実施するなど、迅速に対応した。</p>	
成果と課題	<p>○教育相談の充実 放課後や学活等の時間を利用し、教育相談時間を確保するするなど、各学年で計画的に行った。また、担任は「デイリースタディ」における生徒の心の変容をいち早く把握し、適宜、相談活動を行うなど、早期対応を努めてきた。</p>	

2 改善方針

<p>【重点1】確かな学力の定着とICT教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独自の生活ノート「DAILY STUDY」から「スクールライフノート」のICTへの確実な移行を進める。 ・ICTを有効的に活用し、授業改善を進めていくために、全職員でさらに研修を進めていく。 <p>【重点2】こころとからだの健全な育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・羽津中ならではの特色ある活動（山のコンサート、生徒会の取り組み等）においても取り組みを継続し、生徒の主体的な参加が根付いていくように取り組む。 ・保護者にも活動の様子や意義が伝わるよう、学校便りやホームページを通じて発信をしていく。 <p>【重点3】よりよい未来社会を創造する力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育（4つの力＝「つながる力」「みつめる力」「うごく・いかす力」「めざす力」）の視点で、生徒が自らの成長を感じ取ることができるよう取り組みを推進する。 ・自らの力で成し遂げる達成感や自己肯定感を実感できるよう、生徒が主体的に学校行事に関わる場面を設けていく。 <p>【重点4】子どもの能力を伸ばす教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援委員会や登校サポート委員会における情報共有を大切にし、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどと協働し、関係機関や地域の力を活用した支援を行うなどして、具体的な生徒支援の実施につなげていく。 <p>【重点5】学校教育力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ等の生徒指導上の諸問題、不登校支援における登校サポート等において、教職員間での情報共有を丁寧に行い、組織的な指導を心掛けるとともに、関係機関との連携を密にし、課題解決に取り組む。
--

【様式1】

自己評価書

四日市市立 西朝明中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	生きて働く学力の養成	4
主な方策 成果と課題	<p>(ア) 主体的・対話的で深い学びの実現にむけた授業改善 (イ) 探究的な学習活動の充実 (ウ) 多様な生徒一人ひとりに応じた学習の充実 (エ) よりよい未来社会を創造する力の育成</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none">・研修委員会が中心となり、学校全体で論理的思考力向上の授業改善に取り組んできたことで、生徒が課題解決に向けて既習事項や教科書およびその他の資料から必要な情報を収集、整理、まとめて表現する力がついてきている。多様な生徒一人ひとりに応じた学習にむけて、日頃から意識しながら各教科でいろいろな方法を試したり、全職員に向けて発信したりすることができた。・学校アンケートの結果からも、「学校の授業はわかりやすい」「ICT機器を活用した学習では、自分の考えをまとめたり、交流するときに役立っている」という項目に、95%以上の生徒が肯定的に答えており、生徒たちも新しい学習の形で、学びを深めていることがわかる。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none">・研究テーマに対する活動の難しさや特殊な授業スタイルによって、現在研鑽をすすめている研修を持続していくために、ICT活用に向けての研修会を計画していく必要がある。・個に応じた学習を進めていく中で、互いに教え合ったり、教師がサポートする時間を増やしたりするなどして、誰一人取り残さない学習を進めていく必要がある。	
重点目標2	豊かな人間性の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>(ア) 学び続ける意欲を育み、可能性を拓くキャリア・カウンセリングの充実 (イ) 自尊感情を高め、社会性・人間性を育む道徳・人権教育の充実 (ウ) 生徒が主体的に活動する特別活動の充実 (エ) 合理的配慮が必要な生徒への組織的な取り組み (オ) 「生きる力」「共に生きる力」の基盤となる健やかな心身の育成</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none">・生徒会や学年のリーダーを主体として、行事や集会などで、一人ひとりが活躍できる場面を増やすことができた。生徒たち自身も少しずつ自信をもち活動している。それは学校アンケートの「学校行事は自分たちが主体となって取り組み、充実した内容にすることができた」の肯定的意見が98%であったことからもうかがえる。・SSTやSGE、GWTなど自己肯定感、自己有用感を高める活動を行うことで、学級づくりの一助となった。・特別支援Coや登校支援Co等を中心に各委員会を通して共通理解したうえで、個に応じた丁寧な対応に心がけている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none">・自尊感情を高めるための取り組みや人権教育の取り組みが3年間を通しての取り組みとしては、まだ十分でない面もある。まず教員向けの人権教育に関する研修や自分と向き合うための研修・時間を充実させていきたい。そうすることで、道徳や人権学習の中で考えた意見を実際の生活にいかせるようにつなげていきたい。	

重点目標 3	地域とともにある学校の実現	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>(ア) 学校運営協議会を中心とした保護者・地域の学校教育活動への参画 (イ) 2小4園との連続性・系統性のある教育の推進 (ウ) 地域の未来を創造する人材の育成</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営協議会の方をはじめとし、地域の方が行事や校内整備などに積極的に協力していただき、生徒たちは地域のイベントのボランティアに参加して、とにより関係が築けている。 ・「防災@にしあさけ」は両地区からの協力も得て、地域の方と地域防災について考えるよい機会となっており、地域で活躍する人材育成の一助となっている。 ・職場体験や保育実習などで、2小4園の協力を得て実施することができた。 <p>【課題】</p> <p>学びの一体化の取り組みにおいて、継続して行っている活動を見直す時期にきていると感じる。よりつながりや連帯感を感じられるような取り組みにしていけるとよい。</p>	

2 改善方針

○タブレットなどICT機器をつかって、個別最適化や主体的・対話的な授業を仕組んでいくために、今後も継続して研修委員会を中心として学校全体で研鑽をつんでいく。

○人権教育に関する研修の充実、三重県人権教育基本方針の確認および人権教育の充実を図る。学校として人権学習においてめざすことを改めて明確化し、授業及び授業外での活動全てにおいて自分を大切に、他人を大切にする取り組みをすすめる。

○教職員同士、教職員と生徒、生徒同士、それぞれがよりよい関係を構築できるように取組をすすめていく。また引き続き、教師が笑顔で明るく前向きな言動を見せることで、生徒たちが安心して過ごせる集団作りを行い、様々なことに挑戦できる基盤づくりをしていく。

○地域連携において、コミュニティスクール運営協議会での意見も参考にしながら、地域や保護者との連携を継続して、生徒たちの育成について考えていく。

【様式 1】

自己評価書

四日市市立 桜中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	確かな学力の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>①主体的・対話的で深い学びの実現 ②授業につながる家庭学習の充実 ③特別支援教育の推進</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none">・授業では、生徒が活動できる時間を保障し、生徒自ら自分で学び方を選択できるような授業づくりを意識し取り組んできた。学校アンケート「先生たちは、生徒が考えたり発表したりする学習を大切にしてくれる」の肯定的回答は97%超であった。・全教員がICTの効果的活用などを踏まえた実践を校内で公開するなど、全教科で授業づくりに取り組んだ。協働的な学びを意識し、生徒と課題、生徒と生徒、教師と生徒と課題をどうつなぐかを考えることが少しずつできるようになってきた。・特別支援の観点から、誰もが安心して授業が受けられるよう、教員の指示の出し方の工夫や授業の流れを示すなど授業の構造化に取り組んだ。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none">・研修の方向性等を示しても、各教員の認識にズレがあり統一することはなかなか難しかった。・この単元で、この授業で生徒にどのような力をつけていくのかをもう少し明確にした単元構成と授業づくりが必要である。・学校アンケートの家庭学習の項目では、生徒・保護者ともに肯定的回答は6割以下となった。家庭で生徒が自立して学習できるよう授業の中で学び等方を繰り返し指導する必要がある。	
重点目標 2	豊かな心と健やかな体の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>①キャリア教育の充実 ②自尊感情を高め、社会性・人間性を育む人権・道徳教育の充実 ③健康指導の充実と食育の推進</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none">・すべての教育活動はキャリア教育につながるという考えの下、社会的・職業的自立に必要な4つの力と校訓を関連付け、生徒と共有しながら学習等を進めてきた。・北勢同研の取組を通して人権を大切にした授業づくりや生徒理解に努めたことで、学校アンケートの人権教育の項目では生徒・保護者とも昨年度より評価が高くなった。・「誰一人取り残さない」を合言葉に仲間づくりや学級づくりに取り組んだ結果、生徒指導案件や不登校事案が減った。これで教員は手ごたえを感じ、教員の変容が生徒の変容につながるという好循環を生み出した。・栄養教諭、養護教諭と学校薬剤師が連携した健康集会が定着し、今年度は生徒参加型となり進化した。また、食育指導では栄養教諭の力も借りながら進められた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none">・アンケートの人権項目では少なからず否定的な回答の生徒もいることを忘れず、学校が学級が生徒たちにとって安心して過ごせる場となるよう引き続き人権を大切にしたい教育活動に努める。・キャリア教育に必要な4つの力のうち「うごく力・いかす力」（校訓「勤勉」）は生徒にとってわかりにくいところもあり、どのようなことを目指すのかを丁寧に説明し、学習等を進める必要がある。・生徒がもっと食や健康に興味をもてるように、栄養教諭の活用をさらに考えたい。	

重点目標 3	地域と協働連携した学校づくり	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>①地域に開かれた学校の推進 ②「学びの一体化」の推進 ③働きやすい職場環境づくり</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携した防災学習（1年：桜ウォッチングで防災倉庫巡り等 2年：桜ずきんちゃんとの防災授業 3年：避難所運営ゲームHUG）プログラムが完成し実施できた。地域とともにお互いがWin-Winの関係となるような取組をさらに行っていきたい。 ・北勢同研の取組に学びの一体化を巻き込んだことで、人権学習を切り口にしながら、15年スパンでどのような子どもたちを校区内で育成するかの話し合いが前に進んだ。 ・学びの一体化の校区内で地域と連携した発達段階に応じた防災学習を始めることができた。 ・北勢同研の運営に地域人材を活用したおかげで、教員は研修や発表に集中できた。また、北勢同研の取組を通して、業務の効率化という観点から校務DXが進んだり、授業づくり等で職員同士の同僚性が高まったりするなど、職員が成功体験を積み上げられたのは大きい。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校部活動の「自主的、自発的な参加」が始まったが、子どもの主体性を育むとともに教員の働き方改革を推進する。 ・学校がやるべきことは何かを見極め業務を精選し、今後もCSや地域に協力を仰ぎながらよいよい学校になるように、教職員の働きやすい環境を考える。 	

2 改善方針

・これまでの北勢同研の学びを土台に据え、来年度の人権教育は、生徒たちが自分で考え判断し、行動していく力を身につけていけるよう「反差別の仲間づくり」の視点を入れて進める。

・各教科において生徒同士がつながり合うことができるように、各教科の見方・考え方を働かせる課題の設定や、授業づくりや単元構成においても学びが深まり合う中で生徒同士がつながる実践を積み重ねていきたい。

・また、ICTを活用しながらこれらの実践ができるようにするとともに、人権を大切に授業づくりを継続しながら、さらには個別最適な学びと協働的な学びの実現につなげていく。

・家庭学習では、家庭で生徒が自立して学習できるよう授業の中で学び方を繰り返し指導する。

・キャリア教育に必要な4つの力（つながる力、みつめる力、うごく・いかす力、めざす力）の向上のため、学校教育活動の中でどの活動でどの力の育成をめざすのかなど、生徒アンケートの結果を踏まえながら活動のねらいを明確にした取組にする。

・生徒がただ単に地域行事等に参加するというのではなく、生徒が企画しともに考え参画することで地域理解と地域貢献ができるような機会の創出を地域とともに考えていく。

・ICTを日常に溶け込ませていかに業務で活用するかという視点で、校務DXも進め業務改善に活かす。

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	生徒が主体的に取り組む授業を目指した授業改善を進めます	3
主な方策 成果と課題	<p>○言語活動を重視した対話的な授業の実践を進めます。</p> <p>①言語活動（読む・話す・伝える）の充実 ②タブレットやプロジェクタ等ICTを活用した授業の実施 ③問題解決能力・論理的思考力の育成 ④少人数授業の効果的な活用と授業に遅れがちな生徒の支援 ⑤全国学力学習状況調査やみえスタディの分析と活用 ⑥主体的な学習の時間「マイスタ」の設定</p> <p>成果と課題 ・全教職員が授業公開を行い、言語活動や対話が生まれる授業展開を研修しました。また、公開授業では予め参観者を決めるなどより実のある授業公開が実施できました。一方で生徒の読解力等に課題が見えてきました。今後は読解力向上などの基礎学力を高めつつ、主体的で深い学びになる工夫をしていきます。 ・学力補充や生徒が自主的に学ぶ機会「マイスタ」を設定しました。今後はより生徒にとってよりよい自主学習のあり方を検討していきます。</p> <p>★学校自己評価において 「学校は、分かりやすく、すすんで参加できる授業をしてくれている」 → 肯定的な回答 生徒91% 保護者78%</p>	
重点目標2	ひとりひとりを認め、生徒とともに歩む教職員集団を目指します	3
主な方策 成果と課題	<p>○共に生きる力を高める仲間づくりを推進します。</p> <p>①コアラタイムなどの教育相談、スクールカウンセラーやSSWによるカウンセリングの充実 ②Q-U調査を活用した学級づくり・仲間づくり ③不登校等個別の支援の継続（校内ふれあい教室の設置）</p> <p>成果と課題 ・デイリーライフ（生活ノート）やコアラ週間（教育相談）などで一人ひとりの生徒の声をしっかりと受け止め、様々な場面で生徒同士や生徒と教師のよい関係づくりに取り組むことができました。 ・不登校の取組シート「様式3」の有効活用を進めました。今後は更に各生徒の状況に応じたきめ細やかな指導や支援に取り組んでいきます。 ・不登校については、校内ふれあい教室専任教員、SC・SSW、関係機関等と連携して、個別にきめ細かく支援することができました。今後も様々な学びの場を提供したり、諸機関と連携したりしながら支援していきます。</p> <p>★学校自己評価において 「学校は、生徒一人ひとりが、楽しい学校生活を送れるように努めている。」 → 肯定的な回答 生徒90% 保護者78%</p>	
重点目標3	地域、保護者との協働、校区の学びの一体化を進めます	3
主な方策 成果と課題	<p>○学校からの情報を発信するとともに地域とともにある学校を目指します。</p> <p>・学校便りやHP及び「Home&School」、動画配信による情報発信 ・生徒の地域行事への参加意欲の醸成と参加方法の工夫等</p> <p>○校区の学びの一体化を推進します。</p> <p>・乗り入れ授業、人権フォーラム、三校二園合同研修会の実施、プレ授業（新1年生向け体験授業）等</p> <p>成果と課題 ・日々の学校の様子をHPや「Home&School」により配信し、本校の目指す教育について多くの方に理解していただきました。また、体育祭や文化祭をはじめ2回の授業公開日を新たに設け保護者に参観いただきました。 ・「通学路の除草作業」や「内部川清掃」をPTAや地域の方々と取り組むことで地域の環境美化につなげることができました。 ・「あったか訪問」では、地区婦人会とともに一人暮らしの高齢者にむけて弁当作りを手伝い、地域の福祉について考えました。 ・小学校への乗り入れ授業として、多くの教科の教職員が授業を実施しました。 ・今年度も対面形式で人権フォーラムを行い地区人権協の方々にも参観していただきました。</p> <p>★学校自己評価 「学校の教育活動は全体的に見て満足できる状態にある。」 → 肯定的な回答 生徒91% 保護者86%</p>	

重点目標 4	キャリア教育を推進します	3
主な方策 成果と課題	<p>○キャリア教育の推進に努めます。</p> <p>①志講演による長期的な人生設計について考える機会の設定 ②職業観・勤労観を学ぶ「プロに聞く」の実施 ③高校生活について考える「高校生活入門講座」の実施 ④社会において確かに幸せに生きるために必要な学力、体力、能力を身に付けます。</p> <p>成果と課題 ・「何のために学ぶのか」を考えられるようになり、近い将来（高校受験）だけでなく、その先を見据えた進路意識を持たせることができました。 ・進路の実現に向かって、今できることを意識し取り組んでいくために、学んだことと日常生活とのつながりが実感できる指導を今後も継続していきます。</p> <p>★学校自己評価において 「学校では、将来に向けて夢や志を持つことの大切さや自らの生き方を学習している。」 → 肯定的な回答 生徒 91% 保護者 75%</p>	

2 改善方針

<p>1 主体的で対話的な深い学びを目指した授業改善を進めます。 「協働的な学び」と「個別最適化された学び」をつなげていきます。また引き続き各教科で育てたい資質に鑑みながら、「言語活動」を各教科で重視し、中でも読解力を高め、読み取ったことを活用する力を高めて授業づくりにむけて全教科の授業で改善、研修していきます。</p> <p>2 ひとりひとりを認め、生徒とともに歩む教職員集団を目指します。 「誰一人取り残さない学校教育」を目指し子どもの背景や家庭環境にもより目をむけていきます。また教育相談をより充実させたり、SC、SSW、養護教諭、関係機関と連携し、チームで子どもを育てていきます。</p> <p>3 地域、保護者との協働、校区の学びの一体化を進めます。 引き続きコミュニティスクールの活動として、授業参加をしていただいたり、ご意見を頂戴したりしながら教育活動の改善を行っていきます。生徒、保護者、地域が一体となった取組としては「通学路清掃」や「内部川清掃」を通じて学校と地域のつながりを深めていきます。</p> <p>4 キャリア教育を推進します。 本校は例年、キャリア教育に関する特色のある取組（志講演、高校生活入門講座等）を行っており、本校の行事の一つとして定着しています。今後も生徒たちのキャリアの発達を促す視点でカリキュラム・マネジメントを行い、生徒の発達段階に応じたキャリア教育をすすめ、社会において確かに幸せに生きるために必要な学力、体力、非認知能力を身に付けられる取組を行います。</p>
--

【様式 1】

自 己 評 価 書

四日市市立 楠中 学校

1 学校づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	『あたたかさ』 道徳・人権教育、教育相談、生徒会活動等の充実	4
主な方策 成果と課題	<p>■昨年度同様、不登校傾向のある生徒の割合が高い様子が見られた。定例の生徒指導委員会のメンバーとしてスクールカウンセラー・SSWが参加し個々の生徒へのきめ細やかな対応できるよう連携を密にとり、登校サポートセンター等、各関係諸機関も含め学校、保護者、地域で見守る体制の構築にあたった。また、昨年度から設置した「くすのき教室」（登校サポートルーム）は、教室に入れない生徒たちの居場所となっており、不登校の生徒で定期的な登校が可能になったケースが見られ、大きな成果があったと考える。また、様々な課題を抱えている生徒に対しても、日々の連絡帳での担任との交流や、日常での言葉かけ、年3回の教育相談で、日頃からの生徒との信頼関係づくりもおこなっている。今後もさらなる生徒理解に努め、子どもたちとともにより良い環境づくりを進めたい。</p> <p>■3年間を見通した系統的な人権学習を行うことができた。生徒の学校アンケートの結果でも人権学習について、肯定的な数値が高い結果であった。また、今年度は四同研大会のレポート検討を通して、職員全体で人権学習の研修を深めることができた。道徳においては、指導主事を招いた研修会の実施や、提案授業を仕組むなど研修のテーマとして位置づけ、授業改善を研修委員会を中心として進めることができた。</p> <p>■生徒会活動においては、コロナ以前の制約のない活動に戻り、生徒たちが主体的に活動できる場の設定を増やすことができた。今後も生徒主体の生徒会校則改定・ピンクシャツ運動、保健集会・新入生中学校見学ツアーなど、生徒たちが自主的・主体的に活動できるような場の設定をしていきたい。</p>	
重点目標 2	『たくましさ』 主体的な活動、健康教育、安全教育の充実	3
主な方策 成果と課題	<p>■安心・安全な学習環境づくりのために手洗い・うがいの指導や教室の換気等について徹底した。また、食育教育として、月2回の栄養教諭の学校訪問、食育に関する掲示物を使った啓発を行った。保健指導として、睡眠に関わる取り組みを保健集会という形で実施し、生徒の意識を高めることができた。昨年度の学校保健委員会で、口腔ケアについて保護者からの視点のご意見をいただき、今年度は給食後のほみがき指導を行った。熱中症対策としては、WBGT値を活動場所で計測、熱中症予防に努めることができた。</p> <p>■学校保健委員会を学校三師・SC・PTAIに参加を呼びかけ開催し、活発な話し合いができた。また、養護教諭が保健だよりにより委員会の内容について掲載、配付し全校生徒向けの保健指導も実施した。加えて保健室前の掲示物を利用し、その時期にあった生徒たちの興味関心を喚起するテーマで、体や心の健康に関する学びの機会を設定した。これからもこのような場を設定することにより、個別の生活改善につなげていきたい。</p> <p>■今年度も年度当初の地区別集会で確認した危険個所や、災害時にどう身を守るかについての話し合いを行った。また、町内の危険場所のマップを昇降口付近に掲示している。今年度は通常の火災と水害を想定したグラウンド及び屋上への避難訓練に加え、小学校とこども園と同日同時間に三校園での共同避難訓練を実施することで、生徒の理解を深め、防災意識を高めることができた。</p>	

重点目標 3	『たしかさ』 学力の向上、キャリア教育、特別支援教育の充実	3
主な方策 成果と課題	<p>■毎日の10分間の基礎学習や朝読書などを通して、生徒の基礎・基本の定着をはかることができた。教育DXとして、ICT機器の効果的な活用について教職員研修を進め、生徒の学力向上につながる情報の共有、授業改善に努めた。また、研究協議会での授業実践の交流や教育委員会主催の研修への積極的な参加など、他校での実践も参考にしながら指導力向上に努めた。</p> <p>■第2学年で職場体験学習を3日間実施した。それぞれの実習先において、勤労の意義や喜びについて学ぶ機会を与えていただき、生徒にとって、将来の進路について考える貴重な学びの場になったと考える。また、2年生と3年生がそれぞれ外部講師を招いての「マナー講座」を実施し、社会に出た時に身に着けるべき所作や姿勢、意識について考えることができた。</p> <p>■特別支援委員会や生徒指導委員会、運営委員会などで生徒一人一人の課題について現状と今後の指導方針について話し合い、すべての生徒の課題を共有し、その生徒や保護者のニーズにあった教育支援や合理的配慮について組織的に行なった。また、SCやSSW、教育支援課をはじめ、関係諸機関との連携を深め、生徒本人や保護者、家庭の困り感に寄り添い学校全体で支援する組織づくりに努めた。今年度は、三重大学の教授と連携しての教員研修を実施したことで、より特別支援の在り方について理解を深めることができた。</p>	

重点目標 4	『地域とともにつくる学校』 地域人材の活用促進、地域での学習活動の充実	4
主な方策 成果と課題	<p>■コミュニテースクール運営協議会の会議自体は年5回であるが、委員の皆様とは運営協議会以外の場でもお世話になる機会が多く、学校の教育活動や運営方針の状況について様々な助言をいただくことができた。また、楠地区まちづくり検討委員会主催の行事への中学生ボランティアの参加や、毎月の吉崎海岸清掃への自主的な参加など、地域とのつながりが子どもたちの中に根付いている様子が見られる。また、地区の人権標語作品募集に学年単位で参加しており、生徒の入選作品が印刷された幟が毎年学校に送られ、生徒昇降口に掲示して、生徒の人権意識を高める啓発活動の一環としている。今後も地域との深いつながりを学校の強みとして、更に開かれた学校づくりを目指したい。</p> <p>■地域の総合型スポーツクラブである、楠スポーツクラブからは部活動指導員が派遣されており、いくつかの部活動では毎日放課後にお世話になっている。また、設置外の活動でも子どもたちが指導を受けており、中学校に設置されていない、自分の興味のあるスポーツに意欲的に取り組むことができる体制が整っている。今後も楠中学校と楠スポーツクラブの連携を深め、子どもたちが主体的に取り組むことのできる活動の場を広げていきたいと考える。</p>	

2 改善方針

<p>■本校教職員の強みとして、普段の授業中の発言や休み時間の何気ない会話、やり取り帳の記述内容等から、きめ細やかな生徒観察をして、学習指導や支援に活かしていることがあげられる。また、生徒に関する些細な情報も大切に、学年、学校全体で共有して生徒への理解を深め、一人一人を大切に教育を目指している。今後も、学年間の連携や困り感の共有をより充実させていくことによって、学校組織としての支援・指導を行えるようにしたい。また、生徒会・委員会において生徒が主体的に取り組み、成長につながるような教育活動、場の設定をしていきたい。</p> <p>■主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、「人権学習（総合的な学習の時間）」において、「学び合い」や「考え合う」授業づくりに工夫を重ねてきた。また、それ以外の教科においても、授業の中の様々な場面において、生徒が意欲的に学習に取り組むことのできるような場の設定をしている。全体研修会において今年度の振り返りを行い、情報共有しながら学びの質を上げていくことが大切であると考えている。来年度以降につながるような振り返りを実施し、今後につなげていきたい。</p> <p>■ICTの活用をさらにすすめ、教育DXが当たり前環境へとステップアップさせることで個別最適な学習の機会を保障し、だれも取り残さない教育の実現を目指していきたい。そして今後も働き方改革も意識しながらの教育活動に努め、生徒も教職員も心身ともに健康に過ごせるような学校づくりをしていかなければならないと考える。</p>
--